

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和7年6月30日
【計算期間】	第69期中（自 令和6年10月1日 至 令和7年3月31日）
【ファンド名】	デーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ (DWS ESG Investa)
【発行者名】	デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー (DWS Investment GmbH)
【代表者の役職氏名】	法務部シニアマネージャー エレーナ・ドロズドフ (Elena Drozdov) 法務部シニアマネージャー アントニア・セルキンスキ (Antonia Selkinski)
【本店の所在の場所】	ドイツ連邦共和国 60329 ヘッセン州、フランクフルト・アム・マイン マインツェル・ラントシュトラッセ11-17 Mainzer Landstraße 11-17, Frankfurt am Main, Hessen, Germany 60329
【代理人の氏名又は名称】	弁護士 大江 弘之
【代理人の住所又は所在地】	東京都千代田区霞が関3-2-6 東京倶楽部ビルディング8階 奥・片山・佐藤法律事務所
【事務連絡者氏名】	弁護士 大江 弘之
【連絡場所】	東京都千代田区霞が関3-2-6 東京倶楽部ビルディング8階 奥・片山・佐藤法律事務所
【電話番号】	03 - 6550-8127
【縦覧に供する場所】	該当事項なし

1【ファンドの運用状況】

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー(DWS Investment GmbH)(以下「DWS」又は「管理会社」という)により管理運営されているデーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ(DWS ESG Investa)(以下「ファンド」という)の2025年5月末日現在の運用状況は次のとおりである。

(1)【投資状況】

ファンドの資産別および地域別投資状況は次のとおりである。

資産別投資状況(2025年5月30日現在)

投資対象	時価	投資比率 (%)
	千ユーロ	
株式	3,853,173	93.92
その他投資資産	6,466	0.16
現金・その他 (負債差引後)	242,995	5.92
合計(純資産総額) (邦貨)	4,102,633 (671,068百万円)	100.00

地域別投資状況(2025年5月30日現在)

投資地域 (発行地)	時価	投資比率 (%)
	千ユーロ	
ドイツ	3,755,707	91.54
イタリア	80,696	1.97
オランダ	23,236	0.57
現金・その他 (負債差引後)	242,995	5.92
合計(純資産総額) (邦貨)	4,102,633 (671,068百万円)	100.00

(注)本書中に「EUR」とあるのはすべてユーロを意味する。本邦通貨への換算は、2025年5月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値(1ユーロ=163.57円)による。以下、円金額表示はすべて上記の換算率による。

(2) 【運用実績】

【純資産の推移】

2025年5月末日及び同日前1年以内の各月末におけるファンド(LDクラスのみ)の純資産総額及び1口当たり純資産価額は次のとおりである。

	純資産総額		1口当たりの純資産価額	
	ユーロ	邦貨	ユーロ	邦貨
	百万EUR	百万円	EUR	円
2024年6月末	3,491.3	571,071	202.50	33,123
7月末	3,474.4	568,302	202.40	33,107
8月末	3,529.4	577,303	206.30	33,744
9月末	3,587.5	586,814	210.58	34,445
10月末	3,494.9	571,653	206.18	33,725
11月末	3,508.4	573,874	208.38	34,085
12月末	3,522.4	576,163	209.96	34,343
2025年1月末	3,815.7	624,140	229.21	37,492
2月末	3,856.1	630,749	235.34	38,495
3月末	3,740.8	611,876	229.34	37,513
4月末	3,845.9	629,067	236.90	38,750
5月末	4,068.5	665,481	251.89	41,202

【分配の推移】

2025年5月末日前1年間に支払われたファンドの分配金は次のとおりである。

1口当たり分配金
1.75ユーロ

(注) 投資家が実際に受け取る金額は、居住国によって異なる場合がある。

【収益率の推移】

2025年5月末日までの1年間における収益率は24.01%である。

計算式は次のとおりである。

2025年5月末日の1口当たり純資産価額 + 2025年5月末日前1年間に支払われた分配金の合計額
- 2024年5月末日の1口当たり純資産価額

$$\frac{\text{2025年5月末日の1口当たり純資産価額} + \text{2025年5月末日前1年間に支払われた分配金の合計額} - \text{2024年5月末日の1口当たり純資産価額}}{\text{2024年5月末日の1口当たり純資産価額}} \times 100$$

2【販売及び買戻しの実績】

2024年6月1日から2025年5月31日までの期間におけるファンド(LDクラスのみ)の販売及び買戻しの実績ならびに2025年5月末日現在の発行済口数は次のとおりである。

販売口数	買戻口数	発行済口数
590,515 (0)	1,797,810 (560)	16,151,791 (19,778)

(注) 括弧内は日本国内における販売及び買戻しの実績ならびに発行済口数である。

3【ファンドの経理状況】

a. 本書記載のデーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ(旧デーヴェーエス・インベスタ、以下「ファンド」という。)の邦文の中間財務書類(以下「邦文の中間財務書類」という。)は、ドイツ連邦共和国における諸法令及び一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された原文の中間財務書類(以下「原文の中間財務書類」という。)の翻訳に、下記の円換算額を併記したものである。ファンドの中間財務書類の日本における開示については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)第328条第5項ただし書の規定が適用されている。

邦文の中間財務書類には、財務諸表等規則に基づき、原文の中間財務書類中のユーロ表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円への換算には、2025年5月30日の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値、1ユーロ=163.57円の為替レートが使用されている。なお、円未満又は百万円未満の金額は四捨五入されている。

b. 原文の中間財務書類は、外国監査法人等(「公認会計士法」(昭和23年法律第103号)第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。)から、「金融商品取引法」(昭和23年法律第25号)第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる証明を受けていない。

(1)【資産及び負債の状況】

デーヴェーエス・イーエスジー・インベスタ

純資産計算書(2025年3月31日現在)

	金額(ユーロ)	対純資産比率(%)
・資産		
1. 株式(セクター):		
金融	1,190,802,573.16	31.58
工業	532,386,055.39	14.11
情報技術	516,810,660.91	13.70
耐久消費財	418,680,025.44	11.10
通信サービス	348,860,444.95	9.25
ヘルスケア	251,537,103.62	6.67
原料	246,839,449.88	6.54
公益事業	83,537,891.78	2.21
生活必需品	19,546,242.50	0.52
その他	64,267,284.48	1.70
株式合計:	3,673,267,732.11	97.38
2. 投資ファンド証券	114,555,017.49	3.04
3. デリバティブ	-27,156,716.22	-0.72
4. 銀行預金	15,962,416.62	0.42
5. その他の資産	33,288.89	0.00
・負債		
1. その他の負債	-4,691,039.08	-0.12
・純資産	3,771,970,699.81 (616,981百万円)	100.00

比率の計算に際して四捨五入により僅少な差異が生じることがある。

純資産明細表(2025年3月31日現在)

有価証券銘柄	単位 又は 通貨 (千)	残高	当期		時価	時価合計 (EUR)	対純資産 比率 (%)	
			購入/増加	売却/減少				
取引所売買有価証券						3,673,267,732.11 (600,836百万円)	97.38	
株式								
Adidas (DE000A1EWWW0)	株	666,304	72,825	66,202	EUR	215.1000	143,321,990.40	3.80
Allianz (DE0008404005)	株	521,129		58,699	EUR	350.3000	182,551,488.70	4.84
BASF SE (DE000BASF111)	株	1,405,845	770,100	41,108	EUR	45.2750	63,649,632.38	1.69
BMW Ord. (DE0005190003)	株	769,331	449,698	310,432	EUR	72.8600	56,053,456.66	1.49
BMW Pref. (DE0005190037)	株	458,154		216,066	EUR	68.6500	31,452,272.10	0.83
Brockhaus Technologies AG (DE000A2GSU42)	株	577,414		39,147	EUR	16.9500	9,787,167.30	0.26
Carl Zeiss Meditec (DE0005313704)	株	278,061	278,061	403,562	EUR	60.8000	16,906,108.80	0.45
Commerzbank (DE000CBK1001)	株	7,319,092	1,394,236	1,150,961	EUR	20.8700	152,749,450.04	4.05
Compagnie de Saint-Gobain (C.R.) (FR0000125007)	株	401,586		72,869	EUR	92.6000	37,186,863.60	0.99
Daimler Truck Hldg Jge Na (DE000DTROCK8)	株	1,971,684	693,214	1,122,031	EUR	36.5600	72,084,767.04	1.91
Deutsche Bank Reg. (DE0005140008)	株	8,555,133	1,769,331	1,017,591	EUR	21.4850	183,807,032.51	4.87
Deutsche Börse (DE0005810055)	株	679,848	131,939	110,026	EUR	270.7000	184,034,853.60	4.88
Deutsche Post (DE0005552004)	株	2,628,483	1,032,200	3,848,448	EUR	39.1500	102,905,109.45	2.73
Deutsche Telekom (DE0005557508)	株	9,180,961	3,835,260	1,185,980	EUR	34.1500	313,529,818.15	8.31
E.ON Reg. (DE000ENAG999)	株	6,033,795	6,033,795	3,266,210	EUR	13.8450	83,537,891.78	2.21
Fresenius (DE0005785604)	株	3,140,437	844,183	26,471	EUR	39.0600	122,665,469.22	3.25
Fresenius Medical Care (DE0005785802)	株	1,309,016	1,747,067	438,051	EUR	44.7500	58,578,466.00	1.55
GEA Group (DE0006602006)	株	811,675		8,098	EUR	55.6000	45,129,130.00	1.20
Generali (IT0000062072)	株	2,513,103	2,513,103		EUR	32.4200	81,474,799.26	2.16
Hannover Rück Reg. (DE0008402215)	株	145,172		75,138	EUR	272.6000	39,573,887.20	1.05
Heidelberg Materials (DE0006047004)	株	887,113	521,083	111,613	EUR	157.4000	139,631,586.20	3.70
Infineon Technologies (DE0006231004)	株	4,723,311	414,252	1,320,629	EUR	29.9050	141,250,615.46	3.74
IONOS Group (DE000A3E00M1)	株	453,599	453,599		EUR	25.6500	11,634,814.35	0.31
Kion Group (DE000KGX8881)	株	572,045	572,045		EUR	38.0100	21,743,430.45	0.58
Knorr-Bremse (DE000KBX1006)	株	717,541	255,467	7,159	EUR	82.6500	59,304,763.65	1.57
Mercedes-Benz Group (DE0007100000)	株	1,009,472		1,095,768	EUR	53.6800	54,188,456.96	1.44
Merck (DE0006599905)	株	286,581		220,626	EUR	127.1000	36,424,445.10	0.97
Münchener Rückver (DE0008430026)	株	489,929	170,140	34,484	EUR	582.2000	285,236,663.80	7.56
Nemetschek (DE0006452907)	株	265,482		2,648	EUR	107.7000	28,592,411.40	0.76
Rational Ord. (DE0007010803)	株	27,538			EUR	762.0000	20,983,956.00	0.56
Redcare Pharmacy N.V. (NL0012044747)	株	166,351	46,342	83,650	EUR	117.5000	19,546,242.50	0.52
SAP (DE0007164600)	株	1,335,298		246,282	EUR	243.8000	325,545,652.40	8.63
Scout24 (DE000A12DM80)	株	370,342	103,086	2,666	EUR	95.4000	35,330,626.80	0.94
Siemens Energy (DE000ENER6Y0)	株	3,093,489	949,765	185,810	EUR	52.8000	163,336,219.20	4.33
Siemens Healthineers (DE000SHL1006)	株	341,575	470,486	839,286	EUR	49.6600	16,962,614.50	0.45
Siemens Reg. (DE0007236101)	株	46,335	46,335		EUR	209.6000	9,711,816.00	0.26
Symrise (DE000SYM9999)	株	462,893		195,913	EUR	94.1000	43,558,231.30	1.15
Talanx Reg. (DE000TLX1005)	株	427,369			EUR	95.3500	40,749,634.15	1.08
Volkswagen Pref. (DE0007664039)	株	753,184	753,184		EUR	92.8800	69,955,729.92	1.85
Vonovia (DE000A1ML7J1)	株	2,578,944		722,740	EUR	24.9200	64,267,284.48	1.70
Zalando (DE000ZAL1111)	株	2,028,921	1,253,212	221,493	EUR	31.4000	63,708,119.40	1.69
London Stock Exchange Group (GB00B0SWJX34)	株	294,860	294,860		GBP	115.2500	40,624,763.90	1.08
投資ファンド証券							114,555,017.49 (18,738百万円)	3.04
グループ内ファンド証券(管理会社が発行したファンド証券を含む)							114,555,017.49 (18,738百万円)	3.04
Deutsche Managed Euro Fund Z-Class (IE00BZ3DF20)(0.100%)	口	10,904	62,954	61,871	EUR	10,505.7793	114,555,017.49	3.04
有価証券合計							3,787,822,749.60	100.42

有価証券銘柄	単位 又は 通貨 (千)	残高	当期		時価	時価合計 (EUR)	対純資産 比率 (%)	
			購入/増加	売却/減少				
デリバティブ マイナス記号のついたものは売りポジションを示す。								
個別銘柄有価証券デリバティブ						-27,156,716.22	-0.72	
有価証券先物								
株式先物								
BASF SE JUN 25 (EURX) EUR	単位	607,400				-3,408,789.54	-0.09	
SIEMENS AG JUN 25 (EURX) EUR	単位	1,155,600				-23,747,926.68	-0.63	
銀行預金及び非証券マネーマーケット商品						15,962,416.62 (2,611百万円)	0.42	
銀行預金						15,962,416.62	0.42	
要求払預金(保管銀行)								
ユーロ建預金	EUR	15,592,342.39			%	100	15,592,342.39	0.41
その他のEU/EEA通貨建預金	EUR	50,205.49			%	100	50,205.49	0.00
非EU/EEA通貨建預金								
スイス・フラン	CHF	5,446.00			%	100	5,711.29	0.00
英ポンド	GBP	41,908.81			%	100	50,100.19	0.00
米ドル	USD	285,908.00			%	100	264,057.26	0.01
その他の資産								
未収利息	EUR	30,520.70			%	100	30,520.70	0.00
未収配当金/分配金	EUR	2,768.19			%	100	2,768.19	0.00
その他の負債								
費用項目に係る負債	EUR	-4,691,039.08			%	100	-4,691,039.08	-0.12
純資産						3,771,970,699.81 (616,981百万円)	100.00	

1口当たり純資産額及び発行済口数	単位又は通貨	各通貨における 1口当たり純資産額
1口当たり純資産額		
クラスLD	EUR	229.34 (37,513円)
クラスGLC	EUR	250.72 (41,010円)
クラスTFC	EUR	154.02 (25,193円)
発行済口数		
クラスLD	□	16,310,850.844
クラスGLC	□	124,110.000
クラスTFC	□	608.000

比率の計算に際して四捨五入により僅少な差異が生じることがある。

市場の略号

先物取引所

EURX = ユーレックス(ユーレックスフランクフルト/ユーレックスチューリッヒ)

為替レート(間接レート)

2025年3月31日現在

スイス・フラン	CHF	0.953550 =	EUR	1
英ポンド	GBP	0.836500 =	EUR	1
米ドル	USD	1.082750 =	EUR	1

期中に行われた取引で、純資産明細表に記載されていないものは以下の通りである。

有価証券、投資ファンド証券及び約束手形貸付

(Schuldscheindarlehen)の売買(期末日現在の取引市場区分による。)

有価証券銘柄	単位	購入	売却
	又は 通貨(千)	又は 増加	又は 減少

デリバティブ(オプション取引の開始時に実現したオプション・プレミアム、又はオプション取引高合計、ワラントの場合には購入・売却数量)

取引所売買有価証券

株式			
Novo-Nordisk (DK0062498333)	株		121,336
ASML Holding (NL0010273215)	株	10,113	67,220
AXA (FR0000120628)	株		3,350,106
Bechtle (DE0005158703)	株		233,344
Beiersdorf (DE0005200000)	株		242,810
Brenntag (DE000A1DAH0)	株	263,585	583,120
Continental (DE0005439004)	株	669,221	669,221
Covestro (DE0006062144)	株		1,149,855
Dr. Ing. h.c. F. Porsche (DE000PAG9113)	株		556,932
Hugo Boss Reg. (DE000A1PHFF7)	株		342,487
Jungheinrich Pref. (DE0006219934)	株		971,255
Prysmian (IT0004176001)	株	348,261	348,261
PUMA (DE0006969603)	株	372,678	372,678
Renault (FR0000131906)	株	385,286	385,286
Sartorius Pref. (DE0007165631)	株		110,119
Schneider Electric (FR0000121972)	株		92,689
Schott Pharma (DE000A3ENQ51)	株		571,593
Siltronic Reg. (DE000WAF3001)	株		227,611
Sixt (DE0007231326)	株		338,940

取引高(単位:千)

先物契約

有価証券先物契約

株式先物契約

買建契約: EUR 364,033
(基礎商品: BASF SE, Siemens Reg.)

株価指数先物契約

売建契約: EUR 116,331
(基礎商品: DAX 40(パフォーマンス指数))

K A R B V（投資に関する会計及び評価規則）第7条第9項に基づく補足情報

その他の情報

クラスLDの1口当たり純資産： 229.34ユーロ

クラスGLCの1口当たり純資産：250.72ユーロ

クラスTFCの1口当たり純資産：154.02ユーロ

クラスLDの発行済口数：16,310,850.844口

クラスGLCの発行済口数：124,110.000口

クラスTFCの発行済口数： 608.000口

資産の評価手続きに関する情報

保管銀行は、資産運用会社の協力のもとで評価を実施しなければならない。保管銀行は通常、外部情報を基礎として評価を実施する。

取引価格が入手できない場合には、保管銀行と資産運用会社との間で合意され、かつ、可能な限り市場パラメータに基づく評価モデルを使用して、価格が決定される（導出された市場価額）。この手続きは、継続的なモニタリング・プロセスの対象となる。第三者の価格情報の妥当性は、その他の価格情報源、モデル計算又はその他の適切な手続きを通じて確認される。

本報告書（訳者注：原文の報告書）に報告されている投資で、導出された市場価額で評価されているものはない。

投資ファンド証券について、有価証券ポートフォリオで保有している投資ファンドに対して報告日現在で適用されている総報酬に対する管理報酬の比率は、投資ポートフォリオ中に括弧で表示されている。プラス記号は、実績報酬も課される可能性があることを意味している。ファンドは当報告期間中に他の投資ファンド（対象ファンド）の受益証券を保有していたため、個々の対象ファンドごとに追加の費用及び手数料が発生した可能性がある。

< 訳者注 >

上記諸表中の略語等の説明

Reg. : 記名株式
Pref. : 優先株式

証券金融取引(SFT)及び再使用の透明性に関する規則(EU)2015/2365及び修正規則(EU)648/2012に関する情報 -
セクションAに準拠した報告書

報告期間において、上記規則の対象となる証券金融取引はなかった。

(2) 【投資有価証券明細表等】

ファンドの投資有価証券明細表については、「(1) 資産及び負債の状況」を御参照下さい。

4【管理会社の概況】

（１）【資本金の額】

2025年5月末日現在のDWSの払込資本金は1.15億ユーロ（18,811百万円）である。（授権株式数及び発行済株式総数は該当なし。）

（２）【事業の内容及び営業の状況】

DWSは有価証券投資信託の管理運営を業務とする管理会社であり、2025年5月31日現在、ファンドを含めて契約型、オープン・エンド型の413本の投資信託を管理している。

（2025年5月31日現在）

	種類（基本的性格）	ファンド数	純資産額の合計額（百万EUR）
1	キャッシュマネジメント	2	1,524.6
2	株式運用型	47	73,082.7
3	年金投資ファンド	62	19,386.1
4	マルチアセット運用	249	18,887.3
5	系統的定量的投資	13	3,551.7
6	パッシブ運用型	37	9,190.0
7	オルタナティブ運用型	3	115.0
	合計	413	125,737.3

（３）【その他】

本書提出前6ヶ月以内に訴訟事件、その他重要事項に該当するものは発生していない。

5【管理会社の経理の概況】

a. 本書記載の管理会社の邦文の中間財務書類（以下「邦文の中間財務書類」という。）は、ドイツにおける諸法令及び一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された原文の中間財務書類（以下「原文の中間財務書類」という。）の翻訳に、下記の円換算額を併記したものである。管理会社の中間財務書類の日本における開示については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第328条第5項ただし書の規定が適用されている。

邦文の中間財務書類には、財務諸表等規則に基づき、原文の中間財務書類中のユーロ表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円への換算には、2025年5月30日の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値、1ユーロ=163.57円の為替レートが使用されている。なお、百万円未満の金額は四捨五入されている。

原文の中間財務書類は、外国監査法人等（「公認会計士法」（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。）から、「金融商品取引法」（昭和23年法律第25号）第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる証明を受けていない。

b. 本書記載の管理会社の邦文の財務書類（以下「邦文の財務書類」という。）は、ドイツ連邦共和国における諸法令及び一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して作成された本書記載の原文の財務書類（以下「原文の財務書類」という。）の翻訳に、下記の円換算額を併記したものである。管理会社の財務書類の日本における開示については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）第328条第5項ただし書の規定が適用されている。

邦文の財務書類には、財務諸表等規則に基づき、原文の財務書類中のユーロ表示の金額のうち主要なものについて円換算額が併記されている。日本円への換算には、2025年5月30日の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信直物売買相場の仲値、1ユーロ=163.57円の為替レートが使用されている。なお、百万円未満の金額は四捨五入されている。

原文の財務書類は、外国監査法人等（「公認会計士法」（昭和23年法律第103号）第1条の3第7項に規定されている外国監査法人等をいう。）であるフォーヴィス・マザー・ゲーエムペーハー & Co. KG、ヴィルトシャフツブリューフングスゲゼルシャフト、シュトイアベラートゥングゲゼルシャフト（ドイツ連邦共和国における独立監査人）から、「金融商品取引法」（昭和23年法律第25号）第193条の2第1項第1号に規定されている監査証明に相当すると認められる証明を受けている。その監査報告書の原文及び訳文は、本書に掲載されている。

a. 中間財務書類

(1) 【資産及び負債の状況】

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー
2024年6月30日現在の状況
ドイツにおける諸法令に基づく報告

貸借対照表（無監査）

2024年6月30日現在

	千ユーロ	百万円		千ユーロ	百万円
流動資産	5,076	830	負債	431,608	70,598
売却可能有価証券	80,036	13,091	引当金	451,758	73,894
固定資産	296	48	資本	393,552	64,373
子会社株式	3,096	506			
無形資産	28,399	4,645			
前払費用	13,487	2,206			
親会社貸付金	0	0			
顧客債権	136,202	22,279			
その他の資産	1,010,325	165,259			
純年金資産	0	0			
資産合計	<u>1,276,918</u>	<u>208,865</u>	負債・資本合計	<u>1,276,918</u>	<u>208,865</u>

(2) 【損益の状況】

損益計算書（無監査）

自 2024年1月1日 至 2024年6月30日

	千ユーロ	百万円
会社からの受取配当金	4,578	749
利息収益	18,641	3,049
手数料収益	905,689	148,144
手数料費用	-379,933	-62,146
非利息費用	-248,032	-40,571
その他の費用及び収益	6,479	1,060
利益移転	-307,422	-50,285
法人所得税	<u>0</u>	<u>0</u>
純利益	<u>0</u>	<u>0</u>

[次へ](#)

b. 2024年12月31日終了年度の財務書類
 デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、
 フランクフルト・アム・マイン

貸借対照表 2024年12月31日現在

資産

	2024年 ユーロ	前期 ユーロ
1. 金融機関に対する債権		
a) 要求払	3,651,748.28	4,786,190.07
2. 顧客に対する債権	185,430,272.84	67,622,507.00
3. 債券及びその他の固定利付有価証券		
a) 債券	83,704,754.30	83,476,376.30
aa) 公的発行体 このうち：ドイツ連邦銀行において 担保として適格であるもの 83,704,754.30ユーロ(前期83,476千 ユーロ)		
4. 株式及びその他の変動利付有価証券	50,000.00	50,000.00
5. 関係会社出資金	3,067,751.29	33,933,592.53
6. 無形資産		
a) 購入した利権、産業所有権及び類似の 権利/資産、並びにこれらの権利/資産 に係るライセンス	27,661,734.40	304,213.15
7. 有形固定資産	148,565.00	454,001.00
8. その他の資産	1,355,020,057.23	1,392,884,045.70
9. 前払費用	3,495,411.91	4,462,807.39
資産合計	1,662,230,295.25	1,587,973,733.14
	(271,891百万円)	(259,745百万円)

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、
フランクフルト・アム・マイン

損益計算書

自2024年1月1日 至2024年12月31日

費用

	2024年		前期
	ユーロ	ユーロ	ユーロ
1. 利息費用		6,654,562.32	5,780,708.00
2. 手数料費用		699,938,548.58	634,649,464.14
3. 一般管理費			
a) 人件費			
aa) 賃金及び給料	87,621,310.08		86,030,258.13
ab) 強制社会保険拠出金並びに年金及びその他の従業員給付費用	8,435,670.40		18,339,719.25
このうち：年金制度0.00ユーロ(前期9,674千ユーロ)		96,056,980.48	104,369,977.38
b) その他の管理費	362,481,805.73		366,777,483.37
		458,538,786.21	471,147,460.75
4. 無形資産及び有形固定資産の減価償却及び価値修正		2,457,058.40	941,537.03
5. その他の営業費用		60,015,406.09	22,655,328.46
6. その他の税金(上記5に含まれていないもの)		13,265.44	46.00
7. 利益移転契約に基づき移転された利益		732,120,389.92	573,490,538.71
		(119,753百万円)	(93,806百万円)
費用合計		1,959,738,016.96	1,708,665,083.09
		(320,554百万円)	(279,486百万円)

	収益	
	2024年	前期
	ユーロ	ユーロ
1. 利息収益		
a) 貸出及び金融市場業務		
aa) 経常利息収益(プラス)	38,817,322.71	20,798,111.84
b) 固定利付有価証券及び債務登録債権	1,558,546.58	1,560,864.56
	<u>40,375,869.29</u>	<u>22,358,976.40</u>
2. 以下による経常収益		
a) 関係会社出資金	4,577,805.72	9,024,118.76
3. 手数料収益	1,885,211,043.35	1,623,504,055.21
4. 債権及び一部の有価証券の評価減の戻入れ、 並びに貸倒引当金の戻入れによる収益	1,076,756.42	13,082,902.59
5. その他の営業収益	28,496,542.18	40,695,030.13
収益合計	<u>1,959,738,016.96</u>	<u>1,708,665,083.09</u>
	(320,554百万円)	(279,486百万円)

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、
フランクフルト・アム・マイン

年次財務諸表注記
2024年度

ドイツ会社法の関連情報

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、フランクフルト・アム・マインに本社を置き、フランクフルト・アム・マイン地方裁判所の商業登記簿の部門Bに、登記番号第9135号として登記されている。

作成根拠と方法

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの年次財務諸表は、ドイツ商法（HGB）及び金融機関及び金融サービス機関の会計に関する規則（RechKredV）に従って作成されたものである。

会計処理及び評価の方法

会計上の通貨はユーロである。

相殺の禁止

HGB第246条第2項第1文により、原則として、資産項目と負債項目の相殺、及び費用と収益の相殺はいずれも行われていない。ただし、HGB第246条第2項第2文に従って、年金債務及び類似長期債務の決済を目的とする資産のみは、各債務と相殺されている。

債権及びその他の資産

債権及びその他の資産は額面金額で計上されている。

債券及びその他の固定利付有価証券

債券及びその他の固定利付有価証券は、厳格な低価法を用いて、取得原価で計上されている。

株式及びその他の変動利付有価証券

株式及びその他の変動利付有価証券の保有分は全て、流動資産に適用される厳格な低価法を用いて、取得原価または公正価値（取得原価より低い場合）で計上されている。

関係会社出資金

関係会社出資金は、固定資産として認識され、緩和された低価法に基づいて計上されている。

無形資産及び有形固定資産

無形資産及び有形固定資産は、取得原価または製造原価から予想耐用年数に応じた定額法による通常の減価償却及び償却の累計額を控除した額で計上されている。永続的な価値の下落が予想される場合には、臨時償却が行われる。2008年度より、法令の規定に適合する、固定資産に属する個別使用が可能な資産はプール資産（Sammelposten）として計上されている。

債務

債務は返済金額で評価されている。

引当金

年金及び類似債務に対する引当金は、保険数理原則に基づいて、予測単位積増方式を使用して計算されている。

使用した利率（過去10年度の平均市場金利）は1.90%、昇給率は2.03%であり、現在の年金の調整は2.03%で行われると仮定している。使用した死亡率表はドクトル・クラウス・ホイベックの2018年版の保険数理表を出典としている。

その他の長期引当金は、通常、HGB第253条2項第1文に従って、要返済額で設定されている。

当社が締結した金利スワップに関する偶発損失に対する引当金は、マイナスの市場価格について認識されている。

収益及び費用については、発生主義で会計処理している。

貸借対照表注記

金融機関に対する債権

金融機関に対する債権は、要求払いのものである。

2023年7月1日付けで、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAとの間にキャッシュ・プーリング契約が締結された。これにより、金融機関に対する残高は2023年以降減少している。

顧客に対する債権

顧客に対する債権は、要求払いのものであり、主として、金融ポートフォリオの管理の枠組みでのサービスの提供に関連して発生する。

債券及びその他の固定利付有価証券

当該貸借対照表科目には、2020年に購入したドイツ連邦州の固定利付債券が含まれている。当該債券の金利は2.15%、償還日は2119年3月21日である。額面金額は111,950千ユーロであり、取得原価は83,582千ユーロのプレミアムを含めて195,532千ユーロである。プレミアムは残存期間にわたって定額法で償却されており、当期に係る費用は848千ユーロであった。当該債券については、厳格な低価格法に従って2023年までの各年度において評価減が認識されていたが、貸借対照表日現在の市場価格である81,825千ユーロを反映するために1,077千ユーロ(前期:2,878千ユーロ)の戻入れが認識された。

貸借対照表日現在の未収利息は1,879千ユーロであった。

当該有価証券は上場しており、ドイツ連邦銀行において担保として適格である。当社では当該債券を流動性準備に割り当てている。

株式及びその他の変動利付有価証券

当期において、投資株式会社(Investmentaktiengesellschaft)に対する持分50千ユーロ(前期:50千ユーロ)が報告されている。

当社では当該持分を流動性準備に割り当てている。

固定資産

固定資産の増減については、年次財務諸表注記の附属明細書を参照。

関係会社出資金

当社は前期において、Prof. ウェーバー・ゲーエムベーハーに対する持分を30,837千ユーロで取得した。Prof. ウェーバー・ゲーエムベーハーは2024年1月16日付けで当社と合併した。当社は、ルクセンブルグに本拠を置くデーヴェーエス・インベストメント・エス・エーに対する50%持分を継続して保有している。デーヴェーエス・インベストメント・エス・エーは投資管理会社であり、貸借対照表日現在の資本は417,676千ユーロ(前期:395,259千ユーロ)、2024年度の純利益は30,566千ユーロ(前期:20,149千ユーロ)であった。その帳簿価額に変動はなく、3,068千ユーロ(前期:3,068千ユーロ)であった。同社は上場していない。

2022年のDIP事業の売却以降、DIPマネジメント・ゲーエムベーハーに対する持分29千ユーロを保有している。DIPマネジメント・ゲーエムベーハーは2024年9月30日付けで当社と合併した。

無形資産

無形資産には、Prof. ウェーバー・ゲーエムベーハーの合併に伴い移転した財産権が含まれている。これらの権利に関連する計画償却額は、当期において1,475千ユーロであった。

グループ会社が取得したファンド管理権の残存帳簿価額(304千ユーロ、前期:304千ユーロ)は、当期に全額が計画償却された。

その他の資産

その他の資産には主に、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAとの間のキャッシュ・プーリング契約に基づく資金(1,149,789千ユーロ、前期:886,793千ユーロ)が含まれている。この科目にはまた、2024年12月分の管理報酬(110,068千ユーロ、前期:99,130千ユーロ)も含まれている。

デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAに対する300,000千ユーロの貸付金は、2024年4月17日に返済により終了した。

前払費用

前払費用には、販売手数料の前払額のうち、契約期間上翌期以降に係る金額が含まれている。

金融機関に対する債務

金融機関に対する債務は124千ユーロ(前期:1,194千ユーロ)であり、主に、金融ポートフォリオの管理に関連して受けたサービスに関する請求に関連している。

その他の債務

その他の債務には、主に、2024年度の利益移転による債務732,120千ユーロ(前期:573,491千ユーロ)が含まれている。

年金及び類似債務に対する引当金

2010年度にドイツ会計基準近代化法(BiIMoG)の規定する会計方針及び会計規則に関する新たなドイツ商法を初度適用するに当たり、当社はドイツ商法導入法(EGHGB)第67条第1項第1文及び第2文に基づく選択権を行使しなかった。

年金及び類似債務に対する引当金は227,824千ユーロ(前期:229,368千ユーロ)であった。HGB第253条6項1文に準拠した差額は、貸借対照表日現在-1,625千ユーロ(前期:2,382千ユーロ)である。

貸借対照表日現在の公正価値で評価した年金資産は182,539千ユーロ(前期:180,393千ユーロ)である。年金資産の取得原価が181,658千ユーロであることから、公正価値での評価により881千ユーロの評価増となった。

BiIMoGの規定に基づいて年金資産(182,539千ユーロ)と年金引当金(227,824千ユーロ)を相殺した結果、45,285千ユーロ(前期:48,974千ユーロ)の債務純額となっている。

その他の引当金

その他の引当金は主に、年金契約及び価額保証商品に係る最低支払コミットメント150,526千ユーロ(前期:101,725千ユーロ)、グループ内企業が提供したサービス83,750千ユーロ(前期:110,058千ユーロ)、販売手数料62,291千ユーロ(前期:54,525千ユーロ)、並びに従業員特別報酬41,864千ユーロ(前期:38,459千ユーロ)に対して設定されている。

年金商品からの最低支払コミットメントに関連して、当社は金利低下のリスクをヘッジする目的で、額面金額120,000千ユーロ、期間30年の金利スワップを締結した。

当該金利スワップの貸借対照表日現在の外部の時価評価に基づいて、11,167千ユーロ(前期:14,073千ユーロ)の引当金が設定された。

さらに、当該貸借対照表科目には、早期退職債務に対する引当金5,056千ユーロ(前期:5,349千ユーロ)及び勤続報奨債務に対する引当金2,847千ユーロ(前期:3,516千ユーロ)が含まれている。

劣後債務

2024年12月18日、当社は、グループの親会社からの劣後ローン60,000千ユーロを返済した。当該ローンは無担保劣後債務であり、相互に同順位であるとともに、他の全ての劣後債務とも同順位にあった。

当期の利息費用は4,151千ユーロ(前期:3,914千ユーロ)であった。

資本

貸借対照表日現在、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの資本は393,552千ユーロであった。

その内訳は以下の通りである。

	2024年 千ユーロ	2023年 千ユーロ	変動 千ユーロ
資本金	115,000	115,000	0
資本剰余金	129,725	129,725	0
利益剰余金			
その他の利益剰余金	140,173	140,173	0

法的に配当が制限されるその他の利益剰余金	8,654	8,654	0
	148,827	148,827	0
貸借対照表上の資本計上額	393,552	393,552	0
劣後ローン	0	60,000	-60,000
自己資本（控除項目の控除前）	393,552	453,552	-60,000

グループ親会社からの長期ローン60,000千ユーロが2024年12月18日に返済されたため、貸借対照表日現在の自己資本（控除項目の控除前）は393,552千ユーロとなった。

外貨建項目

貸借対照表日現在、582千ユーロ（前期：733千ユーロ）相当の外貨建資産を保有していた。外貨建負債の額は535千ユーロ（前期：566千ユーロ）であった。

関係会社に関する情報

貸借対照表日現在の関係会社に対する債権及び債務は次の通りである。

	2024年 千ユーロ	2023年 千ユーロ
金融機関に対する債権	0	46
顧客に対する債権	182,141	59,613
その他の資産	1,214,455	1,262,119
金融機関に対する債務	124	931
その他の債務	784,180	660,927
劣後債務	0	60,000

出資者に対する債権及び債務

貸借対照表日現在、本項目には出資者に対する債務744,400千ユーロ（前期：600,190千ユーロ）及び債権526千ユーロ（前期：30,158千ユーロ）が含まれている。

先物取引

貸借対照表日現在、上記の金利スワップ以外に、資産及び負債のヘッジを目的とした未決済の先物取引はなかった。

損益計算書注記

貸出及び金融市場業務に係る収益

2023年7月1日付けでデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAとの間に締結したキャッシュ・プーリング契約に伴い、銀行残高が減少した。そのため、報告された利息収益は主に、キャッシュ・プーリング契約によるデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAからの利息収益34,725千ユーロ（前期：9,051千ユーロ）から成る。

この科目には、グループ企業との貸付金契約からの利息収益3,504千ユーロ（前期：8,845千ユーロ）も含まれている。

貸出及び金融市場業務に係る当座預金残高からの利息収益は、588千ユーロ（前期：2,902千ユーロ）であった。

固定利付有価証券に係る利息収益

固定利付有価証券に係る利息収益の全額が、2021年に取得した固定利付有価証券に係る利息に関連している。

関係会社出資金に係る当期収益

報告された4,578千ユーロ（前期：9,024千ユーロ）の収益には、2023年度に関するデーヴェーエス・インベストメント・エス・エー、ルクセンブルグの利益分配額が含まれている。

手数料収益

手数料収益には、主に、自社のファンドの管理に係る収益1,247,801千ユーロ（前期：1,120,467千ユーロ）、及び国内外の投資管理会社向けの金融ポートフォリオ運用に係る収益498,945千ユーロ（前期：362,973千ユーロ）が含まれている。手数料収益にはさらに、その他の販売活動からの収益53,637千ユーロ（前期：36,332千ユーロ）、並びにファンド受益証券の販売及び保管に係る収益10,730千ユーロ（前期：9,733千ユーロ）が含まれている。

債権及び一部の有価証券の評価減の戻入れ、並びに貸倒引当金の戻入れによる収益

この科目には、債券に係る評価減の戻入れ（1,077千ユーロ）が含まれている。

その他の営業収益

その他の営業収益には主に、進行中の予備調査に対する引当金並びに年金制度及び類似債務に対する引当金を含む引当金の戻入れによる収益20,681千ユーロ、及びサービスの再請求による収益4,869千ユーロが含まれている。

利息費用

この科目は、主に、2024年12月に返済された劣後ローンに係る利息費用4,151千ユーロ（前期：3,914千ユーロ）から構成されている。

手数料費用

手数料費用は、主に、ファンド受益証券の販売に係る費用558,992千ユーロ（前期：486,589千ユーロ）及びファンド管理サービスの獲得に係る費用139,591千ユーロ（前期：141,196千ユーロ）である。

人件費

人件費は主に、当期の給料の支払いに係る費用50,091千ユーロ（前期：51,163千ユーロ）、及び賞与、退職金、早期退職金といった特別給付に係る費用37,530千ユーロ（前期：34,867千ユーロ）に係る費用、並びに社会保障費6,640千ユーロ（前期：6,561千ユーロ）及びその他の従業員給付費用1,795千ユーロ（前期：2,105千ユーロ）から構成されている。

その他の管理費

その他の管理費には、主に、グループ内サービス費252,871千ユーロ（前期：263,123千ユーロ）、ITサービス費33,106千ユーロ（前期：34,044千ユーロ）、広告費17,162千ユーロ（前期：16,010千ユーロ）、及び外部サービス調達費15,977千ユーロ（前期：18,885千ユーロ）が含まれている。

その他の営業費用

その他の営業費用は、主に年金契約及び価額保証商品に係る最低支払コミットメントに対する引当金を増額するための費用（51,050千ユーロ）で構成されている。

この科目にはまた、従業員関連債務に係る利息費用2,188千ユーロ（前期：2,354千ユーロ）も含まれている。

	2024年 千ユーロ	2023年 千ユーロ
以下の従業員関連債務に係る利息費用		
年金債務	2,222	2,454
部分的退職債務	-4	-7
早期退職債務	7	-45
勤続報奨債務	-37	-48
利息費用合計	2,188	2,354
利息費用は、年金資産に含まれる資産に係る以下の収益と相殺されている：		
年金資産の公正価値評価から生じる損益	-6,291	-30,487
制度資産の売却による損益	0	0
年金資産に係る収益合計	-6,291	-30,487
利息費用と年金資産に係る収益の相殺後の費用 / 収益 (-)	-4,103	-28,133

無形資産の償却及び評価減

Prof. ウェーバー・ゲーエムベーハーの合併に伴い移転した財産権に関連する無形資産の償却及び評価減は、1,475千ユーロであった。

他の事業年度に係る収益及び費用

当期において、引当金の戻入れに関連して、他の事業年度に係る収益20,681千ユーロが計上された。

税金費用

1997年度に出資者との間に締結され、2010年度に全面的に改定され、2020年度に最終的に改正された利益移転契約により、当期の税金の額はゼロであった。

連結納税グループの最終親会社として、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAは、連結納税グループ会社への税金費用の移転を行っていない。

利益移転契約に基づく利益移転

当期の純利益は732,120千ユーロ（前期：573,491千ユーロ）であった。

現行の利益移転契約に基づき、合計732,120千ユーロ（前期：573,491千ユーロ）の利益がデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハーに移転された。

その他の情報

保証契約からの偶発債務

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、国の助成を受けた年金商品の一部としてリースター年金のファンド貯蓄プランを管理しており、当該商品の満期時に拠出金の額面金額の全額を顧客に返済することを保証している。証券口座は、ダイナミック・ポートフォリオ・ヘッジ（コンスタント・プロポジション・ポートフォリオ・インシュアランス（CPPI））の戦略及び技法を使用して管理されている。これらの戦略及び技法では、ルールに基づく配分メカニズムを使用して、市場の水準に応じて、優良資産と高リスク資産への資産の配分を行っている。これらの2つの要素間で配分を行うメカニズムにより、価格下落リスクが抑制される。顧客からの預り金は、様々な株式及び固定利付有価証券又は当該商品の説明書等に記載されるその他の金融商品に投資される。

保証人としての当社のリスクは、各保証日における預り金の価額が保証額を下回る場合に発生する。予想される不足額は、期中において継続的に算定され、対応する引当金によりカバーされる。業務執行役員は、これらの商品によるリスク・ポジションについて、定期的に報告を受けている。

2024年12月31日現在、保証された年金拠出金は15,114,960千ユーロ(前期:14,751,265千ユーロ)である。予想される不足額150,526千ユーロ(前期:101,725千ユーロ)の全額に対して対応する引当金が設定されている。

業務執行役員及び監査役の報酬

業務執行役員に対する総報酬は5,392千ユーロ(前期:4,746千ユーロ)であり、その内、1,400千ユーロ(前期:1,307千ユーロ)は株式報酬であった。監査役の総報酬は538千ユーロ(前期:689千ユーロ)であった。

前業務執行役員又は遺族には1,179千ユーロ(前期:1,221千ユーロ)が支払われた。前業務執行役員のために設定されている年金引当金は、12,814千ユーロ(前期:16,516千ユーロ)となっている。

従業員数

当社の年間平均従業員数は、非給与制従業員358人(前期:367人)及び給与制従業員60人(前期:64人)であった。

監査人報酬合計

当期の財務諸表監査に関して、監査人に支払われた報酬は、合計288千ユーロ(前期:282千ユーロ)であった。

監査役会構成員

Dr. ステファン・フープス、会長

デーヴェーエス・マネジメント・ゲーエムベーハーの業務執行役員会会長
(デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの無限責任出資者)

クリストフ・フォン・ドリュアンデル、副会長

クリアリー・ゴットリーブ・スティーン・アンド・ハミルトンLLPのシニア・カウンセル

マンフレッド・パウアー(2024年3月1日から)

デーヴェーエス・マネジメント・ゲーエムベーハーの業務執行役員会構成員
(デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの無限責任出資者)

ハンス-テオ・フランケン

ドイチェ・フェルメーゲンスベラートゥングAG(DVAG)の監査役会会長

Dr. アレグザンダー・イルゲン(2024年11月30日まで)

ODDO BHF SEの最高財務責任者兼企業開発責任者

Dr. ステファン・マルキノウスキー

BASF SEの元取締役

ホルガー・ナウマン

デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaA、オペレーション統括

エリザベート・ヴァイゼンホルン

ポルティクス・インベストメント・ゲーエムベーハーの出資者兼業務執行役員

ゲルハルト・ヴィースホイ

B. Metzler・ジール・ゾーン & Co. AG(銀行)の執行委員会代表

業務執行役員会構成員

Dr. マティアス・リーマン

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員会会長
デーヴェーエス・インターナショナル・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員会会長
デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員

デーヴェーエス・インベストメント・エス・エー、ルクセンブルグの監査役

ニコル・ベーレンス

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員（2024年3月1日から）

デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員（2024年3月1日から）

デーヴェーエス・オルタナティブス・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの監査役（2024年6月17日まで）

デーヴェーエス・グランドベズィッツ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの監査役（2024年3月19日まで）

ヴィンチェンツォ・ヴェッダ

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員

デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員

デーヴェーエス C H A G、チューリッヒの取締役（2024年3月14日まで）

モルゲンファンド・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの監査役（2025年2月25日まで）

クリスティアン・ヴォルフ

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マイン、業務執行役員（2024年3月1日から）

デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マイン、業務執行役員（2024年3月1日から）

モルゲンファンド・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの監査役（2025年2月25日から）

ペトラ・プフラウム

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員（2024年10月31日まで）

デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員（2024年10月31日まで）

ゲロ・ショーマン

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員（2024年12月31日まで）

デーヴェーエス・インターナショナル・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員（2024年12月31日まで）

デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの業務執行役員（2024年12月31日まで）

DB Vita S.A.、ルクセンブルグの取締役（2024年12月31日まで）

ドイッチャー・ペンションフォンス・アーゲー、ケルンの監査役会副議長（2024年12月31日まで）

Prof. ウェーバー・ゲーエムベーハーの業務執行役員（2024年1月16日まで）

企業グループへの所属

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの唯一の出資者（社員）はデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインで、同社は、ドイツ銀行A G、フランクフルト・アム・マインの間接子会社である。

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーはドイツ銀行A Gの被連結企業であるため、H G B第340i条、並びにドイツ商法導入法（E G H G B）第57条第1項第2号及び国際会計基準の適用に関する2002年7月19日付の欧州議会・理事会規則（E G）第1606/2002号（欧州官報L 243 第1文）の第4条に従って、免除の適用を受けて、I F R Sにより作成された、ドイツ銀行A Gの最大のグループに関するドイツ銀行A Gの連結財務諸表に含まれている。I F R Sにより作成されたドイツ銀行A Gの連結財務諸表は、企業登記簿（Unternehmensregister）に開示されている。

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaA の直接子会社であるデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインを通じて、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaA、フランクフルト・アム・マインにも属していることから、I F R Sにより作成されたデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの連結財務諸表にも含まれている。

I F R Sにより作成されたデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAの連結財務諸表は、企業登記簿(Unternehmensregister)に開示されている。

利益移転

2024年度の純利益は732,120,389.92ユーロ(前期:573,491千ユーロ)であった。

現行の利益移転契約に基づき、合計732,120,389.92ユーロ(前期:573,491千ユーロ)の利益がデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハーに移転された。

フランクフルト・アム・マイン 2025年3月5日

業務執行役員会

(Dr. リーマン) (ベーレンス) (ヴェッダ) (ヴォルフ)

附属明細書

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー

2024年度の固定資産の増減

固定資産の増減

取得原価

	残高	増加	減少	残高
	2024年1月1日			2024年12月31日
	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ
関係会社出資金	33,933,592.53	0.00	30,865,841.24	3,067,751.29
無形資産	17,354,321.61	30,865,841.24	0.00	48,220,162.85
事務所什器備品	4,061,472.14	3,293.65	0.00	4,064,765.79
	55,349,386.28	30,869,134.89	30,865,841.24	55,352,679.93

減価償却累計額

	残高	増加	減少	残高
	2024年1月1日			2024年12月31日
	ユーロ	ユーロ	ユーロ	ユーロ
関係会社出資金	0.00	0.00	0.00	0.00
無形資産	17,050,108.46	3,508,319.99	0.00	20,558,428.45
事務所什器備品	3,607,471.14	308,729.65	0.00	3,916,200.79
	20,657,579.60	3,817,049.64	0.00	24,474,629.24

帳簿価額

	2024年12月31日	2023年12月31日
	ユーロ	ユーロ
関係会社出資金	3,067,751.29	33,933,592.53
無形資産	27,661,734.40	304,213.15
事務所什器備品	148,565.00	454,001.00
	30,878,050.69	34,691,806.68

[次へ](#)

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー
フランクフルト・アム・マイン

状況報告書
2024年度

1. 会社の基礎 - 事業モデル

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインの完全子会社であり、主に個人顧客及びドイツの法人顧客向けに、投資ファンドを管理している。

当社は、デーヴェーエス・グループに属しているため、IFRSに準拠して作成されたデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaA(以下「デーヴェーエス KGaA」という。)の連結財務諸表に含まれている。当社は引き続きドイツ銀行グループに属しているため、IFRSに準拠して作成されたドイツ銀行AGの連結財務諸表に含まれている。

デーヴェーエス・グループにおいて、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、引き続きファンド業務及び法人顧客向け商品に注力して行く。

当社及びデーヴェーエス・グループ内の他の企業の商品範囲は、世界中の個人及び機関投資家の資産の保護と成長を助け、あらゆる主要資産クラスを網羅する幅広い投資商品及びサービスを提供している。

ファンドの管理に加えて、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは年金商品及びこれらの保管サービスも提供している。さらに当社は、金融ポートフォリオ管理業務の一環としてのサービスを国内外の顧客に提供している。

当社の唯一の出資者であるデーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインとの間には利益移転契約が存在する。

当社は、2023年7月1日付けで、デーヴェーエス KGaAとの間にキャッシュ・プーリング契約を締結した。当該契約に基づいて、ドイツ銀行AGで維持されている銀行勘定の残高が移転される。

2. 経済報告

2.1 全般的な経済状況及びセクター特有の状況

ユーロ圏では、インフレ予測が全般的に改善する中、インフレ高騰に対する懸念が、低成長に対する不安に置き換わった。こうした状況を踏まえ、欧州中央銀行(ECB)は、2024年6月に利下げを開始し、4回の利下げで政策金利を3.00%まで引き下げた。しかし、ユーロ圏におけるインフレ率の動向は、短期的には極めて不安定な状態が続いた。ユーロスタットによると、インフレ率は、9月に1.7%で年内の底を打った後、徐々に再上昇し、12月には2.4%に達した。一方では、昨年末以降、サービス・セクターにおけるインフレが4.0%近辺の水準で高止まりしており、金融引き締め政策の継続が必要な状態にあった。他方では、欧州経済の冷え込みが顕著になった。

ここ数年、供給サイドの問題(サプライチェーンのひっ迫、喫緊のガス不足、及び熟練労働者不足)が情勢を支配していたが、今では状況が変わり、需要サイドの問題に置き換わっている。多くのボトルネックが解消され、ガス価格も大幅に下落した。しかし、金融引き締め政策による影響が感じられ、下半期に景気を下押しした。2024年の欧州経済は、特に輸出、政府支出、及び家計の個人消費の若干の伸びが追い風になって、再び持ち直した。一方で、最近になって投資家が金利に敏感な建設及び資本財への投資に消極的であることも、抑制効果を及ぼした。

米国では、米商務省経済分析局によれば、経済成長は当初の予想よりも堅調であった。過去の経済指標が上方修正されたことが、経済状況のより詳細な概観を示しており、特に個人家計の状況は以前の報告と比較してやや改善した。驚くべきことに、連邦準備制度理事会(FRB)は、2024年9月に、50ベースポイントの予想外の大幅な利下げを発表し、その後11月に更に25ベースポイント引き下げた。こうした利下げは、労働市場が需要と供給が概ねマッチした新たな均衡へと鎮静化したことにより可能となった。同時に、インフレ率の低下が継続した。米大統領選ではドナルド・トランプ氏が勝利し、今後の財政、貿易及び移民政策に関する一定の不確実性が生じている。

日本では、日本労働組合総連合会(連合)のデータによると、インフレの再燃及び熟練労働者不足の悪化により、春闘での平均賃上げ率は5.1%と、1991年以降最大の伸びとなった。これを受けて、日本銀行は、2024年3月、マイナス金利政策の解除、及びイールドカーブ・コントロールの撤廃に踏み切った。日銀は現在、これらの政策に代えて、政策金利である翌日物金利をゼロから10ベースポイントの範囲内に誘導している。しかし、円は、世界的な金利環境により下落を続け、対米ドルで年初から10%下落した。

中国経済は、2023年はパンデミック関連の制限の緩和もあって、力強い成長を達成した。しかし、2024年第1四半期に同様に堅調な5.3%の伸びを記録した後、年内の残りの期間は大きく失速した。特に、不動産セクターにおける活動の着実かつ大幅な減少、及び小売売上高の鈍化が、段階的な経済安定化への希望を消失させている。経済活動は第3四半期に底(4.6%)に達

した。これを受けて、大規模な景気刺激策が相次いで打ち出された。2024年9月24日、中国の中央銀行は、利下げ及びその他の金融緩和策を発表した。その後、共産党中央政治局は財政政策措置を発表し、また、住宅建設の強化に向けた住宅省と他の機関との共同の取組みも発表された。直近では、11月8日の全国人民代表大会(全人代)において、地方政府の財政及び債務状況の改善に向けた詳細な計画が提示された。その後10月及び11月の経済指標は改善しているが、これは特に、それ以前の第2四半期に導入された政治的インセンティブ(例えば、個人消費者による買い替えに補助金を支給する新たなプログラム)に起因するものであった。しかし、センチメントの改善は、米国の選挙結果により、中国に対する新たな懲罰的関税による影響に注目が集まったことで、すぐに薄れた。

2024年度において、資産運用会社は、インフレ圧力の緩和及び当初の利下げが(株式)市場の回復をもたらし、運用資産の堅調な伸びを支えたことによる恩恵を受けた。一方、マクロ経済の不確実性は、特に中東における収まらぬ政治的緊張、及びロシア・ウクライナ紛争によって根強く残っており、これは、国又は準国家の政府又は当局によって適切に管理されない場合には、事業リスクとなり得る。

資金の純流入の動向は多様であった。ETF(特にアクティブETF商品)は成長を続け、人気も高まった一方、従来型のアクティブ型ファンドからは資金の流出が続いた。高利回りの現金及びマネーマーケット商品には、金融政策の変更にもかかわらず、資金が流入した。これは、投資家が、魅力的なリターンと、市場の不確実性や金利政策の変更を天秤にかけ、慎重な姿勢を維持したためである。一方、中央銀行が政策金利の引き下げを開始する中、投資家が公開市場外のより高いリターンを模索し始めたことから、オルタナティブ資産への需要が再喚起された。この需要を受けて、資産運用会社は、資本を再度、不動産、プライベート・デット、及びインフラプロジェクトへとシフトし始めている。

競争力を維持し強化するためには、生成AIや自動化が提供する新たなテクノロジーに適應することが益々重要になっている。また、商品イノベーションや、カスタマイズされた顧客ソリューションにより重点を置くことが、引き続き、将来の成長に向けての重要な要素となっている。

サステナビリティ(持続可能性)もまた、依然として資産運用業界にとって中心的なトピックであった。2024年において、世界のサステナブル投資ファンドは再び、資金の純流入を記録したが、2023年の水準より下回っており、また、個別地域におけるボラティリティの大きいより広範な市場でも下回った。サステナブル・ファンドによる世界の運用資産は、2024年に8%増加し32億米ドルに達したが、84%の資産は欧州で保有されていた。

ドイツ投資信託協会(BVI)の統計によると、2024年12月におけるドイツの投資ファンド及び資産運用市場は、公募ファンドの運用資産が1兆4,412億ユーロ(前期:1兆2,511億ユーロ)と急激に増加した。これは主に、FRBが2024年の初めには利下げの可能性を示唆していたことから、その後年内にわたって市場環境が大幅に改善したことに起因していた。特別ファンドのセクターも増加を示しており、運用資産は2兆0,167億ユーロ(前期:1兆9,185億ユーロ)であった。

2.2 事業の展開

2024年12月31日現在、当社は80本(前期:85本)の個人向けファンド及び140本(前期:143本)の法人向けファンドを管理していた。また、年が進むにつれて市場環境が改善したことから、運用ファンド残高は、2023年12月31日現在の1,308億ユーロから2024年12月31日現在の1,385億ユーロへと増加した。

BVIによると、デーヴェーエス・グループは、ドイツの個人向け市場において30.1%(前期:28.0%)のシェアを有し、同市場における主導的地位を拡大させ、法人向けセクターにおいても引き続き主要な提供者に属している。

当社は前期において、「ARERO」ブランドの商標権を持つProf. ウェーバー・ゲーエムペーハーに対する持分を取得した。Prof. ウェーバー・ゲーエムペーハーは2024年1月に当社と合併した。

当社の2024年度の平均従業員数は418人(前期:431人)であった。

当社の資産運用戦略は引き続き、商品構成の調整と、長期にわたる商品の良好な運用実績の達成を重点分野に据えている。

2.3 経営成績

当社の財務収益の大部分は、投資ファンド及びポートフォリオの管理に係る取引高に応じた手数料収益からなる。そのため、当社の収益状況は、資本市場の展開、ポートフォリオ管理における投資運用実績及び販売実績に大きく左右される。

手数料収益は1,885.2百万ユーロ(前期:1,623.5百万ユーロ)であり、主に自社のファンドの管理による収益、個別の資産運用による収益並びにファンド・ユニットの販売及び保管による収益から構成されている。前期からの増加は主に、成功報酬の受領、及び運用資産の年間平均残高の増加によるものである。手数料収益の詳細については、注記の説明を参照されたい。

手数料費用は、その大部分が、現行の販売及びコンサルタント・パートナーシップに係る費用から構成されている。2024年度の当該費用は699.9百万ユーロと、管理報酬の傾向に沿って、前期の水準(前期:634.6百万ユーロ)を上回った。手数料費用の詳細については、注記の説明を参照されたい。

当社の最も重要な業績指標である手数料純収益は1,185.3百万ユーロ(前期:988.9百万ユーロ)である。前期からの増加は主に、自社のファンドの管理による収益及び個別の資産運用による収益の増加に起因していた。前期の予測において、手数料純収益の若干の減少が予想されていた(「2024年度は市場水準の上昇が予想されるものの、利益率への圧力も継続し、実績報

酬に関する計画が保守的となることから、2024年度の手数料純収益は、2023年度と比較して若干減少すると予想している。)

一般管理費は458.5百万ユーロであり、前期(471.1百万ユーロ)の水準を下回った。これらの一般管理費は、96.1百万ユーロ(前期:104.4百万ユーロ)の人件費及び合計で362.5百万ユーロ(前期:366.8百万ユーロ)のその他の管理費から成る。人件費の減少は主に、退職給付費用の大幅な減少によるものであった。その他の管理費の減少は主に、グループ配賦費用の減少によるものであった。

HGBの定義による当社の費用/手数料純収益比率は38.9%であり、前期の水準(47.7%)から大幅に改善している。この低下は特に、手数料収益の増加と管理費の減少によるものであった。

正味利息収益は、金利の上昇傾向を背景に、16.6百万ユーロから33.7百万ユーロへと増加した。主な要因は、デーヴェーエス KGaAとのキャッシュ・プーリング契約に関連した預金からの利息収益の増加であった。

投資利益は、子会社であるデーヴェーエス・インベストメント・エス・エー、ルクセンブルグの分配から成り、前期から4.4百万ユーロ減少して4.6百万ユーロとなった。

財務収益は主に、手数料純収益の増加による影響と、2024年における金利動向によるプラスの影響を受けた。2024年度の年間の利益は、732.1百万ユーロ(前期:573.5百万ユーロ)であった。当期の利益は、現行の利益移転契約に基づき、デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインに移転される。

2.4 財政状態

当社の財政状態は正常であり、十分な資本と良好な流動性状況を主な特徴としている。当社の支払能力は常に保証されていた。

当社の主要資産は、短期のその他の資産(主に、デーヴェーエス KGaAとのキャッシュ・プーリング契約に基づく預金からのもの)、貸借対照表日現在未収の当期12月分の管理報酬、並びに債券、株式、変動利付有価証券、顧客に対する債権、及び無形資産(前期:関係会社出資金)から構成されており、合計1,655.5百万ユーロ(前期:1,582.8百万ユーロ)であった。これらの主要資産は、全資産の99.6%(前期:99.7%)を占めていた。

806.1百万ユーロのその他の負債(前期:679.5百万ユーロ)は、デーヴェーエス・ベタイリグングズ・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マインに対する利益の移転を含む短中期のグループ内負債が大部分を占めている。その他の負債の増加は、主に利益移転によるグループ内負債の増加及びグループ配賦費用による負債の増加に起因していた。

引当金合計462.4百万ユーロ(前期:453.8百万ユーロ)は、主に、年金引当金を含む従業員関連の引当金及びその他の引当金(販売手数料及びグループ内の費用配賦を含む。)から構成されている。さらに当社は、年金商品の取扱開始に関連して資本維持コミットメントを負っており、その全額に対して対応する引当金を設定している。資本コミットメントによる偶発債務の詳細については、注記の説明を参照されたい。引当金は十分であった。

60.0百万ユーロ(前期:60.0百万ユーロ)の劣後ローンは、デーヴェーエス KGaAから追加資本支援として供与されたものであったが、2024年12月18日に全額返済された。

当社の資本は、前期同様、合計393.6百万ユーロであった。

総資産約1,662.2百万ユーロ(前期:1,588.0百万ユーロ)のうち資本の割合は23.7%(前期:24.8%)である。

当社の支払能力は常に保証されており、また、当社は常に金融債務を履行することができた。余剰流動資金(短期債権から短期債務を控除したものは、貸借対照表日現在で578.3百万ユーロ(前期:592.7百万ユーロ)であった。前期からの減少は主に、利益移転によるグループ内負債の増加に起因したその他の負債の増加によるものである。余剰流動資金は主に、デーヴェーエス KGaAとのキャッシュ・プーリング契約に基づく預金から構成されている。

当社の財政及び経済状態は正常であり、上述の市場及び産業環境の背景に照らすと、全般的に満足のできるものであったと評価される。

2.5 財務指標及び非財務指標

当社の最も重要な財務指標(手数料純収益)については、2.3「経営成績」に既に記載している。

主要な非財務指標は、運用ファンド残高(2.2「事業の展開」を参照)に加え、商品の運用実績及び提供するサービスの範囲である。これらの非財務指標の計画及び管理は、デーヴェーエス・グループにおける全社レベルで、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの業務執行役員会の関与の下で実施される。

デーヴェーエス・グループは、2024年度においても、商品のラインアップ及びサービスの水準について、数多くの賞を受賞した。

さらに、目的志向かつ成果主義の人事方針の継続は、当社の全レベルの従業員による起業家思考の実践を確実にしている。これは、個人又はグループの長期の業績目標の達成を条件とする変動報酬要素によって支えられている。加えて、デーヴェーエス・グループ及びドイツ銀行グループ内の当社の従業員を対象とした対応するトレーニング及び継続教育プログラムもまた、これに関連して言及されなければならない。

3. 予測、機会及びリスクに関する報告

3.1 リスク・レポート

当社の業務は、適切なリスク管理システムを必要とする。そのため当社は、具体的にデーヴェーエス・グループ及びドイツ銀行グループのグループ全体のリスク管理システムに組み込まれている。

リスク・モデルには、関連するあらゆる種類のリスク(特に、オペレーショナル・リスク、市場リスク、カウンターパーティー・リスク及び流動性リスク)及びリスク管理プロセス(リスクの戦略、識別、分析、伝達及び管理から構成されている)が包含されている。

当社の戦略的なリスクの方向性は、グループ全体の経営の一体化を考慮した上で経営者の責任の下に決定される。デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーのリスク選好度は、その事業活動のための量的及び質的指標を定義するものであり、デーヴェーエスのリスク管理のフレームワークに組み込まれているが、リスク選好ステートメントに記載され、毎年経営者によって承認される。当社のリスク・ポジションは、潜在的リスクの体系的な識別によって統制されている。加えて、定期的に作成されるリスク分析及びその伝達に基づいて、適切な措置が導入される。

当社は、コンプライアンス及び内部監査機能をデーヴェーエス KGaAに外部委託した。デーヴェーエス KGaAのコンプライアンス及び内部監査部門は、ドイツ銀行グループが開発したコンプライアンス及び監査の概念に統合されており、リスクに重点を置きプロセスに依存しない独立した方法でその業務を実施している。

当社の存続を脅かし得るリスクは識別されていない。

3.1.1 非財務リスク

非財務リスクには、オペレーショナル・リスク及びレピュテーション・リスクが含まれる。

オペレーショナル・リスクは、内部のプロセス及びシステムの設計が不適切であること若しくは機能しないこと、人的ミス、又は外部事象の結果として発生する損失のリスクである。これには法的リスクを含む。この定義には、事業リスクやレピュテーション・リスクは含まれない。

レピュテーション・リスクには、ステークホルダーから不適切、非倫理的、又は当社の行動規範を遵守していないと認められる関係、活動又は不作為から生じる、当社のブランド及び評判に対する潜在的な損害に関するリスク、並びに当社の収益、資本又は流動性への関連するリスク及び影響が含まれる。

非財務リスクは、当社の事業モデルに固有のものである。当社は、リスク管理及び統制プロセスを導入しており、また、リスク管理のツール及び概念を使用している。リスク管理のライフ・サイクル全体を通じた当社の統合されたアプローチは、主要な非財務リスクの識別、評価、軽減及び監視を可能にしている。重要な非財務リスクに対処できない場合には、内部又は外部要因による影響を受けて、重要な財務上、規制上、又は風評上の影響が生じる可能性がある。

当社の事業は、主に以下の非財務リスクに直面している。

- 受託者責任：資産運用会社として、当社は、常に顧客の利益を第一に考えるという当社の受託者責任を果たせないリスクがある。これには、不適切な対立を回避するために、様々な利益の分析が必要となる。当社はまた、一定の開示に関する要求事項、規制上の要求事項、原則、契約上の取決め、及び一定の開示義務も考慮しなければならない。

- 情報セキュリティ：当社は、当社事業がサイバー攻撃等の情報セキュリティ・リスクから十分に保護されないリスクを有している。地政学的情勢や技術的進歩の背景からも、金融セクターは、サイバー攻撃や他の形式のインターネット犯罪の高まる潜在的な脅威に晒されている。直接的及び間接的な攻撃の両方により、顧客に対する受託者責任を確実に果たす当社の能力に影響を及ぼす可能性がある。

- トランスフォーメーション：ドイツ銀行とのハイブリッド・インフラの導入は、戦略的リスク及びオペレーショナル・リスクに関する当社のリスク・プロファイルに重要な影響を及ぼす可能性がある。非財務リスクについては、当社は、特定のオペレーティング・プラットフォームを置き換え、新たなテクノロジー(AIの使用を含む)を導入し、新たな第三者サービス・プロバイダーと連携するため、トランスフォーメーション・リスクに晒される。これに関連する全ての活動は、規制上の要求事項に従って、当社、当社の従業員、及び当社の顧客を保護するための適切な統制及びセーフガードが整備されることを確実にするために、厳密な監視の対象となる。

- 規制動向：サステナビリティ、情報技術に関する開示又は保持義務といった問題に関する、資産運用業界における規制上の要求事項の継続的な改善は、迅速な識別、解釈及び実施の点で、当社に課題をもたらしている。適用される法令への不遵守は、当社を重要な非財務リスクに晒す可能性がある。

- サービス・プロバイダー：サービス・プロバイダーは、当社の事業活動の円滑な実施や、受託者責任の履行を支援する。近年、下請け業者への当社の依存が増加している。下請け業者への監視が不十分である場合には、当社の事業の安定性に悪影響が及ぶ可能性がある。

当社の非財務リスクの管理は、当社の顧客及び株主を重要な財務上、規制上又は風評上の損害に対するリスクから保護する目的で、3つの防衛線(LoD)モデルに従っている。当該モデルは、当社のすべての非財務リスクが識別及び対処され、非財務

リスクの管理に関する責任が明確に割り当てられ、リスクが当社の事業とステークホルダーの最善かつ長期的な利益のために意識的に受け入れられ管理されることを確保することを意図している。3つのLoDモデル及びその原則は、組織内のすべての階層で適用される。

オペレーショナル・リスクの識別と評価、及び当該リスクの積極的管理に関する意思決定は、常に確保されている必要がある。この点において、当社はデーヴェーエス・グループのガイドラインに従っており、それはドイツ銀行グループのガイドラインに基づいている。

オペレーショナル・リスク管理フレームワークは、ドイツ銀行グループのフレームワークと整合した、当社の非財務リスクを管理するための相互に連結するツール及び手続を定義している。オペレーショナル・リスク管理フレームワークは、リスク管理のライフ・サイクル全体を通じて主要な非財務リスクを管理するための包括的なアプローチを提供する目的で設定された。このアプローチは、当社のリスク選好度を考慮した非財務リスク・プロファイルの決定、非財務リスク領域及びリスク集中の体系的な識別、並びに軽減措置及び優先順位の定義付けを可能にしている。当社の識別及び影響評価のアプローチは、これらのリスクによる財務業績、長期的な戦略目標及び評判への影響の軽減を確保することを目的としている。当社の非財務リスクを管理するための主な概念及びプロセスには、損失データの収集、学んだ教訓の分析、シナリオ分析、長期的なリスク軽減の監視、トランスフォーメーション・リスクの評価、並びにリスク及び内部統制の評価が含まれる。

デーヴェーエス・グループ・レベルでは、損失分布手法を使用してオペレーショナル・リスクを数値化している。一方、ドイツ銀行グループ・レベルでは、先進的計測手法を使用しており、これは損失分布手法にも対応している。

当社は、レピュテーション・リスクの識別、評価、管理及び報告における支援に関する役割と責任を含むプロセスについて規定する、レピュテーション・リスク管理に関する専用のフレームワークを有している。ドイツ銀行グループのレピュテーション・リスク委員会は、積極的な意思決定、並びにレピュテーション・リスク管理の監視、統制及び調整に対する責任を負っている。

これに基づき、当社は、レピュテーション・リスクが当社の事業戦略及び全体的なリスク・プロファイルと確実に整合することを目指している。レピュテーション・リスクを完全に回避することは不可能であり、当該リスクは様々なステークホルダー(一般市民、顧客、株主、監督機関等)による慣行に関する認識の予測不能な変化といった要因に左右される。当社の受託者責任に従って、当社は、当社のレピュテーション・リスクが顧客の金銭的利益とつり合ったものとなることを目指している。当社は、制裁及び禁輸措置を含む法令に違反する意向を一切有していない。

3.1.2 法的リスク

フランクフルトの検察庁は、引き続き、ESG関連の問題に関する調査を行っている。当社は、手続きの終了に向けて検察庁との対話を行っているが、結果は依然として不透明である。

個人のファンド投資家が、ドイツ及びルクセンブルグのファンドへの投資に関連して、デーヴェーエス・グループに属する企業に対して民事訴訟を提起している。デーヴェーエス以外の他の資産運用会社も、投資に関する個別条項、特に費用条項の妥当性及び有効性について、同様の紛争による影響を受けている。当社は、依然として係属中の数件の訴訟において抗弁を行っている。これらの訴訟の結果は依然として予測不可能である。不利な判決が下った場合には、個別の訴訟手続きを超えた影響が及び恐れがあるが、現時点でその範囲を信頼性をもって見積ることはできない。

3.1.3 その他のリスク

マクロ経済：

2024年の米国の選挙結果を受けて、政治的不確実性が急激に高まっている。特に、米新政権の積極的な貿易・外交政策は、世界経済にとって大きなリスクとなっている。国益の追求をより重視し、多国間のフレームワークや組織を犠牲にして保護主義的措置をとる傾向は、不確実性を高め、経済成長を阻害し、インフレを加速させる恐れがある。EU内の大国経済、特にドイツは、議会における不安定な過半数状態による選挙の可能性及び課題に直面している。リーダーシップの潜在的欠如により、例えば予算、安全保障、防衛、経済改革などの問題におけるEUの意思決定がより困難になる可能性がある。これらの影響は、中東における地政学的な紛争、ロシアのウクライナ侵攻、及び中台間の緊張によって増幅される恐れがある。この動向は、サプライチェーンや原材料価格に影響する可能性がある。ロシアの戦争に関する見通しは、複雑さを増している。リスク・シナリオは、消耗戦から、ウクライナがロシアに領土を奪われるリスクの増大へと変化している。この状況は、東欧における安全保障上の懸念を裏付けるものであり、リスク・プレミアムの上昇を招きかねない。インフレの高進により、中央銀行が新たな利上げサイクルに乗り出し、世界的な景気後退のリスクが高まる可能性がある。

債務の持続可能性は依然として懸念事項であり、財務上の安定性に対するリスクとなっている。政府債務は未だ記録の水準にあり、また、防衛、社会保障、インフラ及び気候関連の支出に対する必要性が依然として高まっていることから、債務削減の見通しは限定的である。民間セクターの一部も、過去10年の低金利環境の間に多額の債務を負っており、デットファイナンスの期限到来時に債務不履行の可能性に直面し得る。多額の外貨建て債務を抱える新興市場国は、金利の変動による影響を受けやすい。

経済環境の悪化や不確実性の高まりにより、ボラティリティの上昇や、金融市場の下振れが生じる可能性がある。同時に、投資家のリスク選好度が低下して売り圧力が強まり、その結果、一部の市場セグメントでは流動性の逼迫が生じる恐れがある。これらの影響が、マイナスの運用成績や運用資産の減少につながり、結果として、関連市場における手数料収益が減少する可能性がある。これにより、当社の業績や、関連諸国との又は関連諸国における当社の事業、及び戦略計画にも、マイナスの影響が及び得る。

デジタル化：

資産運用業界は、顧客行動における抜本的な変化や傾向、並びに新たなデジタル技術により、絶えず変化している。当社は、このような主としてデジタル主導の変化に対して正しい回答を導き出すことを目指しているが、これには、テクノロジー及びデータの重視が求められる。これらの回答を積極的に追い求めない場合には、市場シェアを他社に奪われ、成長が阻害されるリスクがある。例えば、若年層顧客の間では、従来のように投資助言に基づくのではなく、ネオ・ブローカーの利用や、投資商品の自律的な購入が増加しており、また、貯蓄プランをより重視するようになっている。

MiCARの導入により、当社は、規制条件の充足や顧客及び消費者保護の確保において大きな進歩を遂げたものの、デジタル化に関する一般的な規制上のフレームワーク及び法的影響については、ある程度不確実なままである。デジタル化の増加は、サイバー攻撃がテクノロジー障害、セキュリティギャップ、不正アクセス、データの損失又は破壊、又はサービス停止を招き得ることを意味する。当社は、市場シェアの潜在的喪失に対するリスクを低減するために、当社の事業活動において、デジタル・インフラ、並びに商品及びプロセス・リソースに対する投資への必要性が高まると予想している。

サステナビリティ：

当社は、ESG要素を考慮した商品やサービスに対する顧客需要が差別化されていることに留意している。更に、規制環境は絶えず変化しているため、当社は、変化する顧客需要や規制上の要求事項を満たすために、商品範囲や投資オプションを継続的に進化させる必要がある。

2024年において、監督当局は、投資プロセス又は商品の特徴におけるサステナビリティ要素に関する不明確な、曖昧な、又は誤解を招く恐れのある主張に対する審査を継続した。加えて、規制における地域差や多様な市場基準のために、規制リスクの増加、規制上の調査の処理コストの増加、及び開示に関する要求事項が増加することになる。上述の影響は、戦略リスク及び非財務リスク等を含む、様々な従来型のリスクに影響を及ぼす可能性がある。当社の事業活動に関して当社がステークホルダーの誤解を招いたとの見方がある場合、又は発表したネットゼロ目標を当社が達成できない場合、当社はレピュテーション・リスクに晒される可能性がある。このことは、結果として、評判の喪失につながるるとともに、当社の中期成長目標及び収益を生み出す能力に影響を及ぼす可能性がある。当社は、変わり続ける規制当局及び顧客の期待に応えるべく、ESG関連の方針、データ、手法及びプロセスを導入し、継続的に精緻化している。

規制及び監督：

規制改革及び全般的な規制管理の強化が、当社に重要な影響を及ぼしており、今後も及ぼし続けることが予想され、当社の事業や、戦略計画を実現する能力を阻害する恐れがある。

こうした改革は、計画の不確実性の増加、コスト・ベースの上昇や、所要自己資本の増加につながる恐れがあり、そのため、当社の事業モデル、純資産、財政状態及び経営成績、並びに競争環境全般に重要な影響を及ぼす可能性がある。当該リスクは、当社の中期目標にも悪影響を及ぼし得る。商品状況及び金融セクター全体の構造（金融商品のデザイン及び販売を含む）は、例えば、起こり得るMiFID（金融商品市場指令）、UCITS指令、又はPRIIP（パッケージ型リテール投資商品および保険ベース投資商品）規則の改正を通じて、個人投資家に関するEUの戦略に沿って実施される、個人顧客投資に関する既存のフレームワークの変更に応じて、影響を受ける可能性がある。特に、現在議論されている販売パートナーに対するインセンティブの全面禁止は、資産運用会社としての当社を含め、EUの金融セクターに大きな悪影響を及ぼす可能性がある。当社は、余分なテスト、過剰な開示、及び投資を過度に複雑化して個人投資家の投資を抑制する指標に関する統一的なソリューションを廃止することで、投資家の行程を簡素化すべきという業界のコンセンサスに同意する。重点は、ESGの特徴といった最も重要な便益、投資判断を導く定性的側面、及び長期投資の重要性を強調する、目的適合性のある開示情報に置かれるべきである。

流動資金の投資：

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーは、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAが主要なドイツ子会社のユーロ建ての流動性を集中させるために2023年に設定したキャッシュ・プールの一部を成す。

これには、自動的に銀行残高をデーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAに移転することや、マイナスの残高を相殺することが含まれる。当社の経営者は、キャッシュ・プールの保有額に関する概要を定期的に受け取る。

当社は、その事業モデルにより、低い信用リスク及び安定的な流動性リスク・プロファイルを有している。

カウンターパーティーの債務不履行リスクは主に、キャッシュ・プーリングの関連で、デーヴェーエス・グループ・ゲーエムベーハー & Co. KGaAからのグループ内債権から生じる。カウンターパーティーの債務不履行リスクは、当社の内部の自己資

本の充実度の計算に含まれており、リスク補償の対象とされている。これらは定期的に計算され、当社の経営者に報告されている。

流動性リスクの監視は、主に、財務部門による流動性余剰の計算(流動資産から流動性所要額を差し引くことで計算される)を通じて行われる。これらは定期的に計算され、当社の経営者に報告されている。

資本：

さらに当社は、当社が発行した投資ファンド証券を取得している。これらの証券は、年金債務の支払に充当する目的で受託会社に移管されている。これは、主に年金基金に対する投資である。対象となる年金基金の公正価値は、規定に従って年金債務と相殺される。当社では、当該資産による年金債務に対する積立状況を定期的に監視している。前期同様、貸借対照表日現在、債務純額が生じており、貸借対照表の「年金及び類似債務に対する引当金」科目に報告されている。現在のところ、年金債務から重要なリスクが生じることはないと予想している。

ただし、年金商品に係る資本維持コミットメントに関連して、これらの商品の金利に対する感応度から起こりうる引当金の繰入又は戻入によっては、当社の収益ポジションに重要な負担又は重要なプラスの影響が潜在的に生じる可能性がある。当年度においては、資本維持コミットメントに関連して、引当金51百万ユーロを繰り入れた(前期：1百万ユーロを戻し入れた)。

当社は、更なる金利低下による影響を経済的にヘッジする目的で、2020年度に長期の固定利付債券を取得し、これを引き続き保有している。加えて、これに関連して金利スワップを締結している。

資本維持コミットメントに関する引当金の調整と、固定利付債券及び金利スワップに関する評価の影響の双方が、損益計算書に反映されている。これらは基本的に逆方向の影響であるが、ヘッジ取引が(金利)リスクの一部のみをヘッジするため、完全には相殺されない。

当社の将来の損益に対するリスクは、主に管理資産に関連する予想外のパフォーマンスである。こうした状況は、起こり得る市場価格の下落に加え、当社の顧客による積極的な資金の引出しに起因し得る。

現在の管理資産の状況及び資金の流出入は当社によって継続的に監視され、取締役会に伝達されている。その際、主要なリスクは、全社レベルの定期的なストレス・テスト分析の過程で捕捉及び数値化される。

リスク負担能力テストの過程で、当社はリスクをカバーする資本(ここでは責任自己資本の金額に翌期の予想収益(リスク割引率で割引後)並びに子会社の適格利益剰余金を加算し、KAGB第25条第4項及び第6項に基づく最低所要自己資本を減算した金額)と、リスク所要自己資本(ここでは、信頼水準99%の識別されたリスクに基づく当社の経済資本)を定期的に比較している。リスクをカバーする資本による、所要リスク自己資本のカバレッジは、当年度を通じて確保されていた。さらに当社は、KAGB第25条に従って規制上の所要資本を継続的に監視しており、当社が十分な自己資本を保有し、これらの要求事項を遵守していることを確認している。

3.2 予測(機会に関する報告を含む。)

世界経済の見通し：

以下のパラグラフは、2025事業年度における当社及びその事業環境に関する当社予想の概観を示している。世界経済及び資産運用業界についての見通しに関する本セクションは、経済及び業界の将来の動向に関する当社の全般的な予想を反映している。これらは主に、当社のCIOの見解、すなわち当社チーフ・インベストメント・オフィス(CIO)によるマクロ経済問題、金融市場、個別資産クラス及び市場リスクに関する内部予測に基づいている。当社は、当社の受託者責任に関連して、この見解を、当社の商品投資及び開発の意思決定の基礎として用いるとともに、当社の顧客と共有している。

当社は、欧州経済は、成長要因に変化はあるものの、低成長が続くと予想している。例えば、堅調な労働市場、賃金・給与の上昇、及びインフレ率の低下から、2025年は個人消費が再び成長の柱となる可能性が高い。また、設備投資は、金利低下による恩恵を受ける可能性が高い。一方、建設許可件数の減少は、建設業界が再び経済全体に対して成長モメンタムを提供するまでには暫く時間がかかることを示唆している。しかしながら、ドナルド・トランプ氏の米大統領選出が、欧州経済にマイナスの影響を及ぼす可能性が高い。第一の理由は、発表されている関税であり、これは欧州からの米国の輸入にも影響を及ぼす。第二の理由は、将来の貿易政策に関する不確実性や地政学的リスクの高まりであり、これにより投資の手控えが生じる可能性がある。全体的には、当社は、ユーロ圏の経済成長率は、2024年は0.7%、2025年は1%弱と予想している。インフレ率は、2024年は2.5%弱、2025年は2%近辺となる可能性が高い。これを背景に、ECBは、2024年夏に開始した政策金利の正常化を緩やかに継続する可能性が高い。

今後の米国経済については、米国の選挙結果を受けて、また過去におけるダイナミクスの改善もあって、堅調な成長を予想している。一方で、選挙公約の大部分が実施されない可能性があることから、過度に楽観視はしていない。主な財政政策案については、当社は、提案されている減税・雇用法の期限延長が、実際の財政政策支援を提供するというよりは、2026年まで現状を維持する可能性が高いことを強調する。さらに、需要に対する継続的支援、及び関税・移民政策によって見込まれる影響により、若干のインフレ上昇が起こる恐れがある。また、インフレの大幅な加速は予想していないものの、FRBが2025年に政策金利を中立的な水準まで引き下げられる状態にあるとも考えていない。

日本経済は、不安定なスタートを切った後、予想される実質所得の回復により個人消費が牽引役となって、潜在成長率を上回る成長が見込まれる。日銀は引き続き慎重に正常化の道を辿る可能性が高く、政策金利の更なる引き上げだけでなく、国債買い入れの減額も予想される。

中国については、かつて優勢であった、投機的な、債務過剰の住宅市場が困難に直面していることは、不動産セクターが2025年も中国の経済成長の足かせとなることを意味する。2024年秋に発表された政府支援策が2025年において衝撃を和らげるであろうが、米新政権は、中国からの輸出に対する高関税の更なる引き上げをリスク・シナリオからメイン・シナリオへと変えている。経済見通しは現在、相当の不確実性が伴う。当社は、中国からの輸入品に対する示唆されている60%の新たな関税は、この極端な水準では導入されないと想定している。当社の予測では、新たな関税を35%と想定している。当社は、他の諸国への輸出の増加や経済政策支援が2025年の成長見通しへのマイナスの影響を限定的なものにするため、2025年のGDP成長率の押し下げは0.5%程度と見込んでいる。インフレは低水準にとどまる可能性が高く、2024年の0.5%から、2025年は1.3%に上昇すると予想される。この上昇は主に、ベース効果によるものである。政府支援プログラムは構造改革に重点を置いているため、相殺効果はないはずであるが、デフレスパイラルの懸念を払拭するための一助にはなるであろう。

資産運用業界：

当社は、多くの主要なトレンドが、資産運用セクターに、課題を提示する一方、成長機会を提供し続けると信じている。

- 商品範囲：ETFへの需要は拡大を続ける。アクティブETF戦略は、大幅な拡大と資金純流入の増加が続いており、資産運用会社は、パッシブ戦略に加えETF商品のラインアップを拡充させている。分散化がこの変化の主な牽引役となっているように思われる。加えて、資産運用会社は、より高いリターンと分散化を求めて、オルタナティブ資産クラスへの投資を続けており、特にプライベート・マーケットが引き続き勢いを増している。

- サステナビリティ：サステナビリティは、資産運用セクターにおいて重要な特徴の一つとなった。多くの機関投資家が、ESGの目標及び検討を投資目的に組み込んでおり、ますます多くの機関投資家が、ネットゼロ目標を設定している。企業サステナビリティ報告指令といった新たな規制や報告基準により、データの質が一層改善され、ESGラベルにおける意思決定や信頼が強化される。ESG商品に対する需要は引き続き、欧州投資家によって支えられると見込まれる一方、米国での需要はより断片的で政治色が濃くなる。

- デジタル化：多くの資産運用会社にとってテクノロジーは引き続き重点項目である。AIやビッグ・データの普及により、商品の選択肢が広がり、業績や販売が改善している。一方、インテリジェンス・オートメーションの使用の増加が、プロセスの簡素化、効率の向上、及びコストの削減に寄与している。デジタル化を通じて新たな資産クラスが出現しており、また、資産運用会社はトークナイゼーションを推進していることから、一部のオルタナティブ資産クラスの「民主化」をも促進する可能性がある。

- 資産の地理的シフト：特にアジアにおける新興市場が、今後の業界の成長の牽引役となると予想され、現地投資家が投資の視野を世界中に広げ、投資ソリューションを探索する中、資産運用会社に新たな機会を提供すると見込まれる。

- 市場の統合：スケーラビリティ、及び多様な投資機会を提供する能力は、資産運用会社が市場で勝ち抜く能力にとって益々重要になりつつある。資産運用会社は、過半数及び少数株主持分の取得やパートナーシップを通じて、特にオルタナティブ投資（プライベート・マーケット）やフィンテックにおいて、規模の拡大や新たな能力の追加に意欲的である。

- 利益率への圧力：規制及びコンプライアンスに関連したコストの上昇、市場における競争の激化に加え、投資家が手数料が低く規模の大きいパッシブ商品へのシフトを続けていることから、手数料及びコストへの圧力が今後も続くと思われる。

- 人口動態：平均寿命の延伸により、年金制度（特に確定給付制度）への財政負担が増加する。政府は確定拠出モデルへの移行を促しているが、確定拠出モデルはリスクを個人に移行する。結果として、年金システム改革は、資産運用会社に、カスタマイズされた年金商品を提供する機会を提供することになる。

この課題を考慮して、当社は引き続き、厳格なコスト規律を維持しつつ、現在の要求の厳しい環境において他社との差別化が可能で顧客に最大限のサービスを提供できる、革新的かつ持続可能な商品及びサービスに注力していく。

デーヴェーエス・グループ内で、当社は、個人顧客及び法人顧客に対して、包括的なサービスを引き続き提供していく意向である。

KAGBに基づく資本管理会社としての商品の範囲は、主に国内の投資資産の管理並びに国内外の顧客向けの金融ポートフォリオの管理から構成される。

現在のマクロ経済見通し、及び資産運用セクターが直面する課題を踏まえ、当社は、競合他社とは一線を画した革新的な商品やサービスに重点を置きつつ、顧客に対して最高のサービスを提供していく所存である。同時に、コストに対する規律あるアプローチを追求しつつ、成長やイノベーションへの投資を行っていく所存である。当社は引き続き、当社の多様な事業モデルが、現在の課題に対して十分な保護を提供すると確信している。

当社は、明るい市場見通しと緩やかな資金の純流入を背景に、2025年末には当社の運用資産が更に増加すると予想している。

利益率への圧力は継続するものの、これにより、2025年度の手数料純収益は、2024年度と比較して小幅に増加すると予想している。

市場や基礎となる状況に重大な変化が生じた場合には、異なる評価となり得る。特に「その他のリスク」に記載する政治的及び経済的不確実性並びに地政学的なリスクを参照されたい。

全体として、当社は、2025年度は、全般的なコスト圧力の継続から、費用は横ばいと予想している。

現在の法的及び財政的状况から、当社の経営成績及び資産の状況に対する潜在的な脅威の証拠となるものはない。

フランクフルト・アム・マイン

2025年3月5日

業務執行役員会

(Dr. リーマン) (ベーレンス) (ヴェッダ) (ヴォルフ)

[次へ](#)

DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main
Jahresbilanz zum 31. Dezember 2024

Aktivseite

	EUR	Vorjahr EUR		EUR
1. Forderungen an Kreditinstitute			1. Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten	
a) täglich fällig	3.651.748,28	4.786.190,07	a) täglich fällig	
2. Forderungen an Kunden	185.430.272,84	67.622.507,00	2. Sonstige Verbindlichkeiten	
3. Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere			3. Rückstellungen	
a) Anleihen und Schuldverschreibungen	83.704.754,30	83.476.376,30	a) Rückstellungen für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen	45.284.684,95
aa) von öffentlichen Emittenten			b) andere Rückstellungen	417.128.466,30
darunter:			4. Nachrangige Verbindlichkeiten	
beleihbar bei der Deutschen Bundesbank EUR 83.704.754,30 (Vj. TEUR 83.476)			5. Eigenkapital	
4. Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere	50.000,00	50.000,00	a) gezeichnetes Kapital	115.000.000,00
5. Anteile an verbundenen Unternehmen	3.067.751,29	33.933.592,53	b) Kapitalrücklage	129.724.784,04
6. Immaterielle Anlagewerte			c) Gewinnrücklagen	
a) entgeltlich erworbene Konzessionen, gewerbliche Schutzrechte und ähnliche Rechte und Werte sowie Lizenzen an solchen Rechten und Werten	27.661.734,40	304.213,15	ca) andere Gewinnrücklagen	148.826.870,96
7. Sachanlagen	148.565,00	454.001,00	d) Bilanzgewinn	0,00
8. Sonstige Vermögensgegenstände	1.355.020.057,23	1.392.884.045,70		
9. Rechnungsabgrenzungsposten	3.495.411,91	4.462.807,39		
Summe der Aktiva	1.662.230.295,25	1.587.973.733,14	Summe der Passiva	

Für Anteilinhaber verwaltete Sondervermögen

Inventarwerte
Sondervermögen (Anzahl)

Eventualverbindlichkeiten aus Gewährleistungsverträgen

Garantierte Kapitaleinzahlungen auf Altersvorsorgeverträge

DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main
Gewinn- und Verlustrechnung
für die Zeit vom 1. Januar bis 31. Dezember 2024

Aufwendungen

	EUR	EUR	Vorjahr EUR	
1. Zinsaufwendungen		6.654.562,32	5.780.708,00	1. Zinserträge aus
2. Provisionsaufwendungen		699.938.548,58	634.649.464,14	a) Kredit- und Geldmarktgeschäften
3. Allgemeine Verwaltungsaufwendungen				aa) laufende positive Zinserträge
a) Personalaufwand				b) festverzinslichen Wertpapieren und Schuldbuchforderungen
aa) Löhne und Gehälter	87.621.310,08		86.030.258,13	
ab) Soziale Abgaben und Aufwendungen für Altersversorgung und Unterstützung	8.435.670,40		18.339.719,25	2. Laufende Erträge aus
darunter: für Altersvorsorge EUR 0,00 (Vorjahr TEUR 9.674)		96.056.980,48	104.369.977,38	a) Anteilen an verbundenen Unternehmen
b) andere Verwaltungsaufwendungen	362.481.805,73		366.777.483,37	3. Provisionserträge
		458.538.786,21	471.147.460,75	
4. Abschreibungen und Wertberichtigungen auf immaterielle Anlagewerte und Sachanlagen		2.457.058,40	941.537,03	4. Erträge aus Zuschreibungen zu Forderungen und bestimmten Wertpapieren sowie aus der Auflösung von Rückstellungen im Kreditgeschäft
5. Sonstige betriebliche Aufwendungen		60.015.406,09	22.655.328,46	5. Sonstige betriebliche Erträge
6. Sonstige Steuern, soweit nicht unter Posten 5 ausgewiesen		13.265,44	46,00	
7. Auf Grund eines Gewinnabführungsvertrags abgeführte Gewinne		732.120.389,92	573.490.538,71	
Summe der Aufwendungen		1.959.738.016,96	1.708.665.083,09	Summe der Erträge

[次へ](#)

**DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main**

**Anhang
für das Geschäftsjahr 2024**

Gesellschaftsrechtliche Angaben

Die DWS Investment GmbH hat ihren Sitz in Frankfurt am Main und ist im Handelsregister beim Amtsgericht Frankfurt am Main in der Abteilung B mit der Nummer 9135 eingetragen.

Grundlagen und Methoden

Der Jahresabschluss der DWS Investment GmbH ist nach den Vorschriften des Handelsgesetzbuches (HGB) und der Verordnung über die Rechnungslegung der Kreditinstitute und Finanzdienstleistungsinstitute (RechKredV) aufgestellt worden.

Bilanzierungs- und Bewertungsmethoden

Die Bilanzwährung ist EURO.

Verrechnungsverbot

Entsprechend § 246 Absatz 2 Satz 1 HGB werden grundsätzlich weder Aktivposten mit Passivposten noch Aufwendungen mit Erträgen verrechnet. Lediglich Vermögensgegenstände, die ausschließlich der Erfüllung von Schulden aus Altersversorgungsverpflichtungen oder vergleichbaren langfristig fälligen Verpflichtungen dienen, werden mit den entsprechenden Schulden im Sinne von § 246 Absatz 2 Satz 2 HGB verrechnet.

Forderungen und Sonstige Vermögensgegenstände

Die Forderungen und Sonstige Vermögensgegenstände sind mit dem Nennwert ausgewiesen.

Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere

Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere werden mit den Anschaffungskosten unter Beachtung des strengen Niederstwertprinzips angesetzt.

Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere

Sämtliche Bestände an Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere sind nach dem für das Umlaufvermögen geltenden strengen Niederstwertprinzip mit ihren Anschaffungskosten bzw. mit den niedrigeren beizulegenden Werten bilanziert.

Anteile an verbundenen Unternehmen

Die Anteile an verbundenen Unternehmen werden dem Anlagevermögen zugeordnet und unter Anwendung des gemilderten Niederstwertprinzips mit den Anschaffungskosten angesetzt.

Immaterielle Anlagewerte und Sachanlagen

Die Bilanzierung der Immateriellen Anlagewerte und Sachanlagen erfolgt zu Anschaffungs- bzw. Herstellungskosten, vermindert um planmäßige lineare Abschreibungen entsprechend den voraussichtlichen wirtschaftlichen Nutzungsdauern. Bei voraussichtlich dauernden Wertminderungen werden außerplanmäßige Abschreibungen vorgenommen. Seit dem Geschäftsjahr 2008 wird für selbständig nutzbare bewegliche Wirtschaftsgüter des Anlagevermögens entsprechend den gesetzlichen Vorschriften ein Sammelposten geführt.

Verbindlichkeiten

Verbindlichkeiten sind mit ihrem Erfüllungsbetrag angesetzt.

Rückstellungen

Die Rückstellungen für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen werden gemäß versicherungsmathematischen Grundsätzen nach der projizierten Einmalbeitragsmethode berechnet.

Der verwendete Zinssatz (durchschnittlicher Marktzins der vergangenen zehn Geschäftsjahre) beträgt 1,90%, die Steigerung der anrechenbaren Bezüge wird mit 2,03%, die Anpassung der laufenden Renten mit 2,03% angenommen. Als Sterbetafeln werden die Richttafeln 2018 G von Dr. Klaus Heubeck verwendet.

Die anderen langfristigen Rückstellungen sind grundsätzlich mit dem Erfüllungsbetrag gemäß § 253 Abs. 2 Satz 1 HGB gebildet.

Die Drohverlustrückstellung für einen von der Gesellschaft abgeschlossenen Zinsswap wird mit dem negativen Marktwert angesetzt.

Erträge und Aufwendungen werden periodengerecht abgegrenzt.

Erläuterungen zur Bilanz

Forderungen an Kreditinstitute

Die Forderungen an Kreditinstitute sind täglich fällig.

Mit Wirkung zum 1. Juli 2023 wurde mit der DWS Group GmbH & Co. KGaA ein Cash Pool Vertrag abgeschlossen, die Guthaben bei Banken sind entsprechend seit 2023 rückläufig.

Forderungen an Kunden

Die Forderungen an Kunden sind täglich fällig und resultieren im Wesentlichen aus der Durchführung von Dienstleistungen im Rahmen der Finanzportfolioverwaltung.

Schuldverschreibungen und andere festverzinsliche Wertpapiere

Der Bilanzposten enthält eine in 2020 gekaufte festverzinsliche Anleihe eines Bundeslandes. Die Anleihe wird mit 2,15% verzinst und hat eine Laufzeit bis zum 21. März 2119. Bei einem Nominalbetrag von TEUR 111.950 belaufen sich die Anschaffungskosten einschließlich Agio von TEUR 83.582 auf TEUR 195.532. Das Agio wird linear auf die Restlaufzeit verteilt, die Belastung für das Berichtsjahr beträgt TEUR 848. Der Anleihe wurde zum Bilanzstichtag ein Betrag von TEUR 1.077 (Vj. TEUR 2.878) zugeschrieben auf den Marktwert von TEUR 81.825, nachdem in den Vorjahren vor 2023 im Rahmen des strengen Niederstwertprinzips abgeschrieben wurde.

Die Stückzinsen sind zum Bilanzstichtag mit einem Betrag in Höhe von TEUR 1.879 abgegrenzt.

Das Wertpapier ist börsennotiert und bei der Bundesbank beleihbar. Die Gesellschaft ordnet die Anleihe der Liquiditätsreserve zu.

Aktien und andere nicht festverzinsliche Wertpapiere

Im Berichtsjahr werden Anteile an einer Investmentaktiengesellschaft in Höhe von TEUR 50 (Vj. TEUR 50) ausgewiesen.

Die Gesellschaft ordnet die Anteile der Liquiditätsreserve zu.

Anlagevermögen

Entwicklung des Anlagevermögens siehe Anlage zum Anhang.

Anteile an verbundenen Unternehmen

Im Vorjahr hat die Gesellschaft die Anteile an der Prof. Weber GmbH in Höhe von TEUR 30.837 gekauft. Die Prof. Weber GmbH wurde am 16. Januar 2024 mit der Gesellschaft verschmolzen.

Die Gesellschaft hält weiterhin einen 50%-igen Anteil an der DWS Investment S.A mit Sitz in Luxemburg. Die DWS Investment S.A. ist eine Kapitalverwaltungsgesellschaft und weist zum Bilanzstichtag ein Eigenkapital von TEUR 417.676 (Vj. TEUR 395.259) aus. Der Jahresüberschuss des Geschäftsjahres 2024 beläuft sich auf TEUR 30.566 (Vj. TEUR 20.149). Der Buchwert beträgt unverändert TEUR 3.068 (Vj. TEUR 3.068). Die Gesellschaft ist nicht börsennotiert.

Vor dem Hintergrund des Verkaufs des DIP-Geschäfts im Jahr 2022 wurden Anteile an der DIP Management GmbH in Höhe von TEUR 29 gehalten. Die DIP Management GmbH wurde mit Wirkung zum 30. September 2024 mit der Gesellschaft verschmolzen.

Immaterielle Anlagewerte

Der Bilanzposten Immaterielle Anlagewerte beinhaltet im Rahmen der Verschmelzung der Prof. Weber GmbH übergegangene Schutzrechte. Im Berichtsjahr betrug die planmäßige Abschreibung hierfür TEUR 1.475.

Der Restbetrag der von Konzerngesellschaften erworbenen Fondsverwaltungsrechte in Höhe von TEUR 304 (Vj. TEUR 304) wurde im Berichtsjahr planmäßig in voller Höhe abgeschrieben.

Sonstige Vermögensgegenstände

Unter Sonstige Vermögensgegenstände werden im Wesentlichen die Guthaben aus dem Cash Pool Vertrag mit der DWS Group GmbH & Co. KGaA (TEUR 1.149.789; Vj. TEUR 886.793) ausgewiesen. Weiterhin ist die Managementvergütung für den Monat Dezember 2024 (TEUR 110.068; Vj. TEUR 99.130) ausgewiesen.

Der Kredit an die DWS Group GmbH & Co. KGaA über TEUR 300.000 wurde mit Rückzahlung am 17. April 2024 beendet.

Rechnungsabgrenzungsposten

Der aktive Rechnungsabgrenzungsposten beinhaltet im Voraus gezahlte und auf die Vertragslaufzeit abgegrenzte Vertriebsprovisionen.

Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten

Die Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten betragen TEUR 124 (Vj. TEUR 1.194) und entfallen im Wesentlichen auf Rechnungen für erhaltene Serviceleistungen wegen Finanzportfolioverwaltung.

Sonstige Verbindlichkeiten

Die Sonstigen Verbindlichkeiten enthalten im Wesentlichen die Verbindlichkeit aus der Ergebnisabführung 2024 in Höhe von TEUR 732.120 (Vj. TEUR 573.491).

Rückstellung für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen

Die Gesellschaft hat im Rahmen der erstmaligen Anwendung der durch das Bilanzrechtsmodernisierungsgesetz (BilMoG) festgelegten neuen handelsrechtlichen Bilanzierungs- und Bewertungsregeln im Geschäftsjahr 2010 das Wahlrecht nach EGHGB Artikel 67 Abs. 1 Satz 1 und 2 nicht angewendet.

Die Rückstellung für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen beläuft sich auf TEUR 227.824 (Vj. TEUR 229.368). Der Unterschiedsbetrag nach § 253 Abs. 6 Satz 1 HGB beträgt zum Stichtag TEUR -1.625 (Vj. TEUR 2.382).

Das Deckungsvermögen beläuft sich zum Bilanzstichtag unter Ansatz zu Zeitwerten auf TEUR 182.539 (Vj. TEUR 180.393). Bei Anschaffungskosten des Deckungsvermögens von TEUR 181.658 ergibt sich ein höherer Wert aus der Bewertung mit dem Zeitwert von TEUR 881.

Nach Verrechnung des Deckungsvermögens von TEUR 182.539 mit der Pensionsrückstellung in Höhe von TEUR 227.824 entsprechend den Vorgaben des BilMoG ergibt sich ein passiver Unterschiedsbetrag aus der Vermögensverrechnung in Höhe von TEUR 45.285 (Vj. TEUR 48.974).

Andere Rückstellungen

Die anderen Rückstellungen sind im Wesentlichen gebildet für Mindestzahlungszusagen aus Altersvorsorgeverträgen bzw. Wertsicherungsprodukten in Höhe von TEUR 150.526 (Vj. TEUR 101.725), für in Anspruch genommene konzerninterne Dienstleistungen in Höhe von TEUR 83.750 (Vj. TEUR 110.058), für Vertriebsprovisionen in Höhe von TEUR 62.291 (Vj. TEUR 54.525) und für an Mitarbeiter zu zahlende Sondervergütungen in Höhe von TEUR 41.864 (Vj. TEUR 38.459).

Im Zusammenhang mit den Mindestzahlungszusagen aus Altersvorsorgeprodukten hat die Gesellschaft einen Zinsswap über einen Nominalbetrag von TEUR 120.000 und einer Laufzeit von 30 Jahren abgeschlossen, um sich gegen das Risiko fallender Zinsen abzusichern.

Auf Basis der Bewertung des Zinsswaps gemäß einer externen Bewertung zum Marktwert am Stichtag wurde eine Rückstellung in Höhe von TEUR 11.167 (Vj. TEUR 14.073) gebildet.

Weiterhin werden unter dieser Bilanzposition Rückstellungen wegen Vorruhestandsverpflichtungen in Höhe von TEUR 5.056 (Vj. TEUR 5.349) und Jubiläumsverpflichtungen in Höhe von TEUR 2.847 (Vj. TEUR 3.516) ausgewiesen.

Nachrangige Verbindlichkeiten

Am 18. Dezember 2024 hat die Gesellschaft das Nachrangdarlehen von der Konzernobergesellschaft in Höhe von TEUR 60.000 zurückgezahlt. Das Darlehen begründete nicht besicherte, nachrangige Verbindlichkeiten, die untereinander und mit allen anderen nachrangigen Verbindlichkeiten im gleichen Rang standen.

Im Berichtsjahr sind Zinsaufwendungen in Höhe von TEUR 4.151 (Vj. TEUR 3.914) angefallen.

Eigenkapital

Das Eigenkapital der DWS Investment GmbH beträgt zum Bilanzstichtag TEUR 393.552.

Die Zusammensetzung ist wie folgt:

	2024 TEUR	2023 TEUR	Änderung TEUR
Gezeichnetes Kapital	115.000	115.000	0
Kapitalrücklage	129.725	129.725	0
Gewinnrücklage			
andere Gewinnrücklagen	140.173	140.173	0
andere Gewinnrücklagen aufgrund Ausschüttungssperre	8.654	8.654	0
	<u>148.827</u>	<u>148.827</u>	<u>0</u>
Eigenkapital lt. Bilanz	<u>393.552</u>	<u>393.552</u>	<u>0</u>
Nachrangdarlehen	0	60.000	-60.000
	<u>393.552</u>	<u>453.552</u>	<u>-60.000</u>

Das bei der Konzernobergesellschaft aufgenommene langfristige Darlehen in Höhe von TEUR 60.000 wurde am 18. Dezember 2024 zurückgezahlt, wodurch die Eigenmittel (vor Abzugsposten) zum Bilanzstichtag TEUR 393.552 betragen.

Fremdwährungsposition

Zum Bilanzstichtag liegen auf ausländische Währung lautende Vermögensgegenstände über TEUR 582 (Vj. TEUR 733) vor. Die auf ausländische Währung lautenden Verbindlichkeiten betragen TEUR 535 (Vj. TEUR 566).

Angaben zu verbundenen Unternehmen

Am Bilanzstichtag bestehen Forderungen und Verbindlichkeiten an verbundene Unternehmen

	2024	2023
	TEUR	TEUR
Forderungen an Kreditinstitute	0	46
Forderungen an Kunden	182.141	59.613
Sonstige Vermögensgegenstände	1.214.455	1.262.119
Verbindlichkeiten gegenüber Kreditinstituten	124	931
Sonstige Verbindlichkeiten	784.180	660.927
Nachrangige Verbindlichkeiten	0	60.000

Forderungen und Verbindlichkeiten gegenüber der Gesellschafterin

Zum Bilanzstichtag bestehen Verbindlichkeiten in Höhe von TEUR 744.400 (Vj. TEUR 600.190) sowie Forderungen in Höhe von TEUR 526 (Vj. TEUR 30.158) gegenüber der Gesellschafterin.

Termingeschäfte

Vom vorgenannten Zinsswap abgesehen, bestanden am Bilanzstichtag keine offenen Termingeschäfte zur Absicherung von Vermögensgegenständen und Schulden.

Erläuterungen zur Gewinn- und Verlustrechnung

Zinserträge aus Kredit- und Geldmarktgeschäften

Durch den mit Wirkung vom 1. Juli 2023 mit der DWS Group GmbH & Co. KGaA abgeschlossenen Cash Pool Vertrag, sind die Guthaben bei Banken entsprechend rückläufig. Die ausgewiesenen Zinserträge beinhalten dementsprechend im Wesentlichen Zinserträge aus dem Cash Pool Vertrag in Höhe von TEUR 34.725 (Vj. TEUR 9.051) von der DWS Group GmbH & Co. KGaA.

Daneben sind Zinserträge aus Kreditverträgen mit Konzerngesellschaften in Höhe von TEUR 3.504 (Vj. TEUR 8.845) ausgewiesen.

Die Zinserträge aus Kredit- und Geldmarktgeschäften aus den laufenden Bankguthaben betragen TEUR 588 (Vj. TEUR 2.902).

Zinserträge aus festverzinslichen Wertpapieren

Die Zinserträge aus festverzinslichen Wertpapieren umfassen in voller Höhe die Zinsen des in 2021 erworbenen festverzinslichen Wertpapiers.

Laufende Erträge aus Anteilen an verbundenen Unternehmen

Der ausgewiesene Ertrag in Höhe von TEUR 4.578 (Vj. TEUR 9.024) enthält die Gewinnausschüttung der DWS Investment S.A., Luxemburg, für das Geschäftsjahr 2023.

Provisionserträge

Die Provisionserträge enthalten im Wesentlichen Vergütungen für die Verwaltung eigener Fonds in Höhe von TEUR 1.247.801 (Vj. TEUR 1.120.467) sowie Vergütungen für Finanzportfolioverwaltung für in- und ausländische Kapitalverwaltungsgesellschaften in Höhe von TEUR 498.945 (Vj. TEUR 362.973). Weitere Provisionserträge stammen aus weiteren Vertriebsaktivitäten in Höhe von TEUR 53.637 (Vj. TEUR 36.332) sowie aus dem Absatz bzw. aus der Verwahrung von Fondsanteilen über TEUR 10.730 (Vj. TEUR 9.733).

Erträge aus Zuschreibungen zu Forderungen und bestimmten Wertpapieren sowie aus der Auflösung von Rückstellungen im Kreditgeschäft

Die Position beinhaltet die Zuschreibungen aus Wertaufholung auf die Anleihe (TEUR 1.077).

Sonstige betriebliche Erträge

Die Sonstigen betrieblichen Erträge beinhalten im Wesentlichen Erträge aus der Auflösung von Rückstellungen in Höhe von TEUR 20.681, darunter aus Vorsorgerückstellung für laufende Ermittlungsverfahren und aus den Pensionsplänen und ähnlichen Verpflichtungen, sowie Erträge aus Weiterverrechnungen von Dienstleistungen in Höhe von TEUR 4.869.

Zinsaufwendungen

Der Ausweis umfasst im Wesentlichen den Zinsaufwand für das im Dezember 2024 zurückgezahlte Nachrangdarlehen in Höhe von TEUR 4.151 (Vj. TEUR 3.914).

Provisionsaufwendungen

Die Provisionsaufwendungen beinhalten im Wesentlichen Aufwendungen für den Vertrieb von Fondsanteilen in Höhe von TEUR 558.992 (Vj. TEUR 486.589) und Aufwendungen für den Bezug von Managementleistungen für die Fondsverwaltung in Höhe von TEUR 139.591 (Vj. TEUR 141.196).

Personalaufwendungen

Die Personalaufwendungen beinhalten im Wesentlichen Aufwendungen für laufende Gehaltszahlungen in Höhe von TEUR 50.091 (Vj. TEUR 51.163) und Sonderzahlungen wie Boni, Abfindungen und Vorruhestand (TEUR 37.530, Vj. TEUR 34.867) sowie Aufwendungen für Soziale Abgaben in Höhe von TEUR 6.640 (Vj. TEUR 6.561) und Unterstützung in Höhe von TEUR 1.795 (Vj. TEUR 2.105).

Andere Verwaltungsaufwendungen

Unter den anderen Verwaltungsaufwendungen werden im Wesentlichen Aufwendungen für konzerninterne Leistungen über TEUR 252.871 (Vj. TEUR 263.123), für EDV-Dienstleistungen über TEUR 33.106 (Vj. TEUR 34.044), für Werbung über TEUR 17.162 (Vj. TEUR 16.010) und für den Bezug von Fremdleistungen über TEUR 15.977 (Vj. TEUR 18.885) ausgewiesen.

Sonstige betriebliche Aufwendungen

Die Sonstigen betrieblichen Aufwendungen umfassen im Wesentlichen Aufwand für die Erhöhung der Rückstellung für Mindestzahlungszusagen aus Altersvorsorgeverträgen bzw. Wertsicherungsprodukten (TEUR 51.050).

Daneben sind Zinsaufwendungen aus Personalverpflichtungen ausgewiesen in Höhe von TEUR 2.188 (Vj. TEUR 2.354).

	2024	2023
	<u>TEUR</u>	<u>TEUR</u>
Zinsergebnis aus Personalverpflichtungen		
aus den Pensionsverpflichtungen	2.222	2.454
aus Altersteilzeitverpflichtungen	-4	-7
aus den Vorruhestandsverpflichtungen	7	-45
aus den Jubiläumsverpflichtungen	<u>-37</u>	<u>-48</u>
Summe Zinsergebnis	2.188	2.354

Das Zinsergebnis wird mit folgenden Erträgen der im Deckungsvermögen befindlichen Vermögensgegenstände verrechnet:

Ergebnis aus der Bewertung zum Zeitwert der Pensionsfonds	-6.291	-30.487
Ergebnis aus dem Verkauf von Plan-Assets	<u>0</u>	<u>0</u>
Summe der Erträge aus dem Deckungsvermögen	-6.291	-30.487

Verbleibender Aufwand / Ertrag (-) nach Saldierung des Zinsaufwandes mit den Erträgen aus dem Deckungsvermögen	<u>-4.103</u>	<u>-28.133</u>
---	---------------	----------------

Abschreibung auf Immaterielle Anlagewerte

Die Abschreibungen auf Immateriellen Anlagewerten in Höhe von TEUR 1.475 betreffen die im Rahmen der Verschmelzung der Prof. Weber GmbH übergebenen Schutzrechte.

Periodenfremde Aufwendungen und Erträge

Im Geschäftsjahr haben sich periodenfremde Erträge aus der Auflösung von Rückstellungen in Höhe von TEUR 20.681 ergeben.

Steueraufwand

Aufgrund des mit der Gesellschafterin in 1997 abgeschlossenen, in 2010 vollständig neu gefassten und zuletzt in 2020 geänderten Gewinnabführungsvertrages fallen für das Geschäftsjahr keine laufenden Steuern an.

Als oberste Organträgerin verzichtet die DWS Group GmbH & Co. KGaA auf eine Weiterbelastung des Ertragsteueraufwands an die Organgesellschaften.

Auf Grund eines Ergebnisabführungsvertrags abgeführte Gewinne

Der Gewinn des Geschäftsjahres beläuft sich auf TEUR 732.120 (Vj. TEUR 573.491).

Im Rahmen des bestehenden Gewinnabführungsvertrages beträgt die Ergebnisabführung an die DWS Beteiligungs GmbH TEUR 732.120 (Vj. TEUR 573.491).

Sonstige Angaben

Eventualverbindlichkeiten aus Gewährleistungsverträgen

Die DWS Investment GmbH verwaltet im Rahmen der staatlich geförderten Altersvorsorge Riester-Fondssparpläne und garantiert den Kunden die Rückzahlung des vollen Nominalbetrages der Einzahlungen bei Endfälligkeit der Produkte. Die Wertpapierdepots werden mittels Strategien und Techniken der dynamischen Portfolioabsicherung (Constant Proportion Portfolio Insurance – CPPI) verwaltet. Diese Strategien und Techniken verwenden in Abhängigkeit des Marktniveaus einen regelbasierten Verteilungsmechanismus in Vermögenswerte mit gutem Rating und riskantere Vermögenswerte. Durch den Zuteilungsmechanismus zwischen beiden Komponenten wird das Risiko eines Kursrückgangs begrenzt. Die Kundeneinzahlungen werden in eine breite Palette von Aktien und

festverzinslichen Wertpapieren oder in andere in der Produktdokumentation beschriebene Instrumente investiert.

Das Risiko für die Gesellschaft als Garantin tritt ein, falls der Depotwert zum jeweiligen Garantiedatum niedriger als der garantierte Betrag ist. Der erwartete Fehlbetrag wird während des Geschäftsjahres laufend ermittelt und mittels einer entsprechenden Rückstellung abgedeckt. Das Management wird in regelmäßigen Abständen über die Risikoposition aus diesen Produkten informiert.

Die zum 31. Dezember 2024 garantierten Altersvorsorgebeiträge belaufen sich auf TEUR 15.114.960 (Vj. TEUR 14.751.265). Die erwartete Unterdeckung von TEUR 150.526 (Vj. TEUR 101.725) ist durch eine entsprechende Rückstellung in voller Höhe gedeckt.

Bezüge der Geschäftsführung und des Aufsichtsrates

Die Gesamtbezüge der Geschäftsführung betragen TEUR 5.392 (Vj. TEUR 4.746), davon entfallen TEUR 1.400 (Vj. TEUR 1.307) auf aktienbasierte Vergütungen. Die Gesamtbezüge des Aufsichtsrates belaufen sich auf TEUR 538 (Vj. TEUR 689).

An ehemalige Geschäftsführer oder deren Hinterbliebene wurden TEUR 1.179 (Vj. TEUR 1.221) gezahlt. Die für ehemalige Geschäftsführer gebildeten Pensionsrückstellungen betragen TEUR 12.814 (Vj. TEUR 16.516).

Zahl der Mitarbeiter

Die Gesellschaft beschäftigte im Jahresdurchschnitt 358 (Vj. 367) außertariflich angestellte und 60 (Vj. 64) tariflich angestellte Mitarbeiter und Mitarbeiterinnen.

Gesamthonorar des Abschlussprüfers

Das Gesamthonorar des Abschlussprüfers beträgt für Abschlussprüfungsleistungen des Geschäftsjahres TEUR 288 (Vj. TEUR 282).

Mitglieder des Aufsichtsrates

Dr. Stefan Hoops, Vorsitzender

Vorsitzender der Geschäftsführung der DWS Management GmbH
(Persönlich haftende Gesellschafterin der DWS Group GmbH & Co. KGaA)

Christof von Dryander, stellv. Vorsitzender

Senior Counsel der Cleary Gottlieb Steen & Hamilton LLP

Manfred Bauer (seit 01.03.2024)

Mitglied der Geschäftsführung der DWS Management GmbH
(Persönlich haftende Gesellschafterin der DWS Group GmbH & Co. KGaA)

Hans-Theo Franken

Vorsitzender des Aufsichtsrats der Deutsche Vermögensberatung Aktiengesellschaft DVAG

Dr. Alexander Ilgen (bis zum 30.11.2024)

Chief Financial Officer und Head of Corporate Development der ODDO BHF SE

Dr. Stefan Marcinowski

Ehemaliges Mitglied des Vorstandes der BASF SE

Holger Naumann

Head of Operations, DWS Group GmbH & Co. KGaA

Elisabeth Weisenhorn

Gesellschafterin und Geschäftsführerin der Portikus Investment GmbH

Gerhard Wiesheu

Vorstandssprecher des Bankhauses B. Metzler seel. Sohn & Co. AG

Mitglieder der Geschäftsführung

Dr. Matthias Liermann

Sprecher der Geschäftsführung der DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main
Sprecher der Geschäftsführung der DWS International GmbH, Frankfurt am Main
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Investment S.A., Luxemburg

Nicole Behrens

Geschäftsführerin der DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main (seit 01.03.2024)
Geschäftsführerin der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main (seit 01.03.2024)
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Alternatives GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 17.06.2024)
Mitglied des Aufsichtsrats der DWS Grundbesitz GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 19.03.2024)

Vincenzo Vedita

Geschäftsführer der DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main
Mitglied des Verwaltungsrats der DWS CH AG, Zürich (bis zum 14.03.2024)
Mitglied im Aufsichtsrat der MorgenFund GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 25.02.2025)

Christian Wolff

Geschäftsführer der DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main (seit 01.03.2024)
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main (seit 01.03.2024)
Mitglied im Aufsichtsrat der MorgenFund GmbH, Frankfurt am Main (seit 25.02.2025)

Petra Pflaum

Geschäftsführerin der DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 31.10.2024)
Geschäftsführerin der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 31.10.2024)

Gero Schomann

Geschäftsführer der DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 31.12.2024)
Geschäftsführer der DWS International GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 31.12.2024)
Geschäftsführer der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main (bis zum 31.12.2024)
Mitglied des Verwaltungsrats der DB Vita S.A., Luxemburg (bis zum 31.12.2024)
Stellvertretender Vorsitzender des Aufsichtsrats der Deutscher Pensionsfonds AG, Köln (bis zum 31.12.2024)
Geschäftsführer der Prof. Weber GmbH (bis zum 16.01.2024)

Konzernzugehörigkeit

Alleinige Gesellschafterin der DWS Investment GmbH ist die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, eine mittelbare Tochtergesellschaft der Deutsche Bank AG, Frankfurt am Main.

Die DWS Investment GmbH gehört zum Konzernverbund der Deutsche Bank AG und wird deshalb befreiend in den IFRS-Konzernabschluss der Deutsche Bank AG für den größten Kreis von Unternehmen der Deutsche Bank AG gemäß § 340i HGB i.V. mit den Vorschriften nach Art. 57 Satz 1 Nr. 2 EGHGB sowie Artikel 4 der Verordnung (EG) Nr. 1606/2002 des Europäischen Parlaments und Rates vom 19. Juli 2002 betreffend die Anwendung internationaler Rechnungslegungsstandards (ABl. EG Nr. L 243 S.1) einbezogen. Der Konzernabschluss der Deutsche Bank AG nach IFRS wird im Unternehmensregister bekannt gemacht.

Die DWS Investment GmbH gehört über die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, einer unmittelbaren Tochtergesellschaft der DWS Group GmbH & Co. KGaA auch zum Konzernverbund der DWS Group GmbH & Co. KGaA, Frankfurt am Main, und wird deshalb auch in den IFRS-Konzernabschluss der DWS Group GmbH & Co. KGaA einbezogen.

Der Konzernabschluss der DWS Group GmbH & Co. KGaA nach IFRS wird im Unternehmensregister bekannt gemacht.

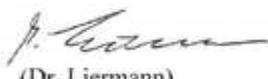
Ergebnisabführung

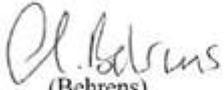
Das Ergebnis des Geschäftsjahres 2024 beläuft sich auf Euro 732.120.389,92 (Vj. TEUR 573.491).

Im Rahmen des bestehenden Gewinnabführungsvertrages erfolgt eine Ergebnisabführung an die DWS Beteiligungs GmbH in Höhe von Euro 732.120.389,92 (Vj. TEUR 573.491).

Frankfurt am Main, 05. März 2025

Die Geschäftsführung


(Dr. Liermann)


(Behrens)


(Vedda)


(Wolf)

DWS Investment GmbH
Anlagespiegel 2024

Entwicklung des Anlagevermögens

	Anschaffungskosten			Abschreibungen				
	Stand	Zugänge	Abgänge	Stand	Stand	Zugänge	Abgänge	Stand
	01.01.2024			31.12.2024	01.01.2024			31.12.2024
	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro	Euro
Anteile an verbundenen Unternehmen	33.933.592,53	0,00	30.865.841,24	3.067.751,29	0,00	0,00	0,00	
Immaterielle Anlagewerte	17.354.321,61	30.865.841,24	0,00	48.220.162,85	17.050.108,46	3.508.319,99	0,00	20.558.42
Betriebs- und Geschäftsausstattung	4.061.472,14	3.293,65	0,00	4.064.765,79	3.607.471,14	308.729,65	0,00	3.916.20
	<u>55.349.386,28</u>	<u>30.869.134,89</u>	<u>30.865.841,24</u>	<u>55.352.679,93</u>	<u>20.657.579,60</u>	<u>3.817.049,64</u>	<u>0,00</u>	<u>24.474.62</u>

[次へ](#)

DWS Investment GmbH
Frankfurt am Main
Lagebericht
für das Geschäftsjahr 2024

1. Grundlagen der Gesellschaft - Geschäftsmodell

Die DWS Investment GmbH, eine 100%ige Tochtergesellschaft der DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, verwaltet als Kapitalverwaltungsgesellschaft Sondervermögen vorwiegend für Privatkunden und deutsche institutionelle Kunden.

Die Gesellschaft gehört zu dem Konzernverbund der DWS Gruppe und wird in den Konzernabschluss der DWS Group GmbH & Co. KGaA („DWS KGaA“) nach IFRS einbezogen. Die Gesellschaft gehört weiterhin der Deutsche Bank Gruppe an und wird in den Konzernabschluss der Deutsche Bank AG nach IFRS einbezogen.

Innerhalb der DWS Gruppe konzentriert sich die DWS Investment GmbH nach wie vor auf das Fondsgeschäft und Produkte für institutionelle Kunden.

Das Produktangebot der Gesellschaft und anderer Gesellschaften der DWS Gruppe hilft Privatanlegern und institutionellen Anlegern weltweit, ihr Vermögen zu schützen und zu mehren und bietet eine breite Palette an Investmentprodukten und -services über alle wichtigen Anlageklassen.

Das Angebot der DWS Investment GmbH umfasst neben der Verwaltung von Sondervermögen auch das Angebot von Produkten zur Altersvorsorge und deren Verwahrung. Weiterhin erbringt die Gesellschaft im Rahmen der Finanzportfolioverwaltung Leistungen an nationale und internationale Kunden.

Zur alleinigen Gesellschafterin DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, besteht ein Gewinnabführungsvertrag.

Mit Wirkung zum 1. Juli 2023 hat die Gesellschaft einen Cash Pool Vertrag mit der DWS KGaA abgeschlossen, wobei die Salden der bei der Deutsche Bank AG geführten Bankkonten transferiert werden.

2. Wirtschaftsbericht

2.1. Gesamtwirtschaftliche und branchenbezogene Rahmenbedingungen

In der Eurozone hat die Sorge um ein zu geringes Wachstum die Sorge um hohe Inflationsraten abgelöst, da sich der Inflationsausblick insgesamt aufgehellt hat. Vor diesem Hintergrund hat die EZB im Juni mit Zinssenkungen begonnen und den Leitzins in vier Schritten auf nunmehr 3,00% gesenkt. Kurzfristig verlief die Entwicklung der Inflation in der Eurozone allerdings immer noch recht volatil. Laut Eurostat erreichte die Inflationsrate im September mit 1,7% den tiefsten Stand des Jahres, sie zog allerdings im Dezember erneut auf 2,4% an. Einerseits ist die Inflation im Dienstleistungssektor seit Ende letzten Jahres bei rund 4,0% hoch geblieben, was

weiterhin eine restriktive Geldpolitik erfordert. Andererseits hat sich die europäische Wirtschaft merklich abgekühlt.

In den vergangenen Jahren prägten angebotsseitige Probleme das Bild: Schwierigkeiten in den Lieferketten, drohende Gasknappheit und Fachkräftemangel. Inzwischen hat sich das Bild gewandelt und Probleme auf der Nachfrageseite dominieren. Viele Engpässe haben sich aufgelöst und die Gaspreise sind stark gefallen. Dennoch hat die restriktive Geldpolitik ihre Wirkung entfaltet, so dass sich die Konjunktur in der zweiten Jahreshälfte deutlich abgekühlt hat. In diesem Jahr hat die europäische Konjunktur wieder Tritt gefasst, getragen vor allem von den Exporten, den Konsumausgaben des Staates und einer leichten Erholung der Konsumausgaben der privaten Haushalte. Die zinssensitiven Bau- und Ausrustungsinvestitionen wirkten zuletzt eher bremsend.

In den USA ist das Wirtschaftswachstum laut dem Bureau of Economic Analysis bisher robuster als ursprünglich erwartet. Aufwärtskorrekturen früherer Wirtschaftsdaten präzisieren das Wirtschaftsbild, insbesondere die Lage der privaten Haushalte ist etwas besser als zuvor gemeldet. Die Federal Reserve Bank überraschte mit einer unerwartet starken Zinssenkung um 50 Basispunkte im September, gefolgt von einer weiteren Senkung um 25 Basispunkte im November. Dies war möglich, da sich die Arbeitsmärkte auf ein neues Gleichgewicht abgekühlt haben, bei dem die Nachfrage weitgehend dem Angebot entspricht. Gleichzeitig kühlten sich die Inflationsraten weiter ab. Die US-Präsidentenwahlen gingen zugunsten des designierten Präsidenten Donald Trump aus. Dies führte zu einer gewissen Unsicherheit über die künftige Finanz-, Handels- und Migrationspolitik.

In Japan führten laut Daten des japanischen Gewerkschaftsbundes ein Wiederaufleben der Inflation und ein zunehmender Arbeitskräftemangel zu einer durchschnittlichen Lohnerhöhung von 5,1% bei den jährlichen Lohnverhandlungen im Frühjahr. Dies ist die höchste Lohnerhöhung seit 1991 und war der Auslöser für die Bank of Japan, im März ihre Politik der Negativzinsen und der Steuerung der Zinsstrukturkurve zu beenden. Stattdessen steuert sie nun den Tagesgeldsatz als Leitzins in einer Bandbreite von null bis zehn Basispunkten. Ungeachtet dessen hat der Yen aufgrund des vorherrschenden globalen Zinsumfelds weiter an Wert verloren und ist gegenüber dem US-Dollar seit Jahresbeginn um 10% gefallen.

Die chinesische Wirtschaft ist im vergangenen Jahr kräftig gewachsen, teilweise begünstigt durch die Wiedereröffnung nach der Pandemie. Nach einem ebenfalls starken ersten Quartal mit einem Wachstum von 5,3% kühlte sich die chinesische Wirtschaft im weiteren Jahresverlauf jedoch deutlich ab. Insbesondere der anhaltend starke Rückgang der Aktivitäten im Immobiliensektor und eine Verlangsamung der Einzelhandelsumsätze ließen die Hoffnung auf eine allmähliche Stabilisierung der Wirtschaft schwinden. Der Tiefpunkt der wirtschaftlichen Aktivität wurde im dritten Quartal erreicht (4,6%). Dieses löste eine umfassende Runde wirtschaftspolitischer Stützungsmaßnahmen aus. Am 24. September kündigte die chinesische Notenbank Zinssenkungen und andere geldpolitische Lockerungen an, gefolgt von der Ankündigung fiskalpolitischer Maßnahmen durch das Politbüro und einer gemeinsamen Initiative des Wohnungsbauministeriums und anderer Institutionen zur Ankurbelung des Wohnungsbaus. Die jüngste Ankündigung erfolgte auf der Sitzung des Nationalen Volkskongresses am 8. November, auf der ein detaillierter Plan zur Verbesserung der Finanz- und Verschuldungssituation der Kommunen vorgestellt wurde. Inzwischen haben sich die Wirtschaftsdaten für Oktober und November verbessert. Dies war vor allem auf die bereits im zweiten Quartal eingeführten politischen Anreize zurückzuführen, wie z. B. das neue Subventionsprogramm für den privaten Konsum, das „Trade-in“-Programm. Die verbesserte Stimmung wurde jedoch bald durch den Ausgang der US-Wahlen überschattet, der die Aufmerksamkeit auf die Auswirkungen möglicher neuer Strafzölle gegen China lenkte.

Im Jahr 2024 profitierten die Vermögensverwalter vom nachlassenden Inflationsdruck und dem Beginn der Zinssenkungen, die zu einer Erholung der (Aktien-)Märkte führten, was ein starkes Wachstum der verwalteten Vermögenswerte unterstützte. Auf der anderen Seite blieb die makroökonomische Unsicherheit aufgrund der anhaltenden politischen Spannungen, insbesondere im Nahen Osten und des russisch-ukrainischen Konflikts, bestehen und kann ein Risiko für das Geschäft darstellen, wenn sie von nationalen oder subnationalen Regierungen oder Behörden nicht angemessen gehandhabt wird.

Die Nettomittelzuflüsse zeigten einen divergierenden Trend. Während ETFs weiterhin wuchsen und an Popularität gewannen, insbesondere beim aktiven ETF-Produktangebot, verzeichneten traditionelle aktive Fondsmanager weiterhin Abflüsse. Hochverzinsliche Bargeld- und Geldmarktprodukte weisen trotz der Änderung der Geldpolitik Zuflüsse auf, da die Anleger weiterhin vorsichtig blieben und die attraktiven Renditen mit den Marktunsicherheiten und den Änderungen der Zinspolitik abwogen. Im Gegensatz dazu wurde mit Beginn der Zinssenkungen die Nachfrage auf Alternative Vermögenswerte wieder geweckt, da die Anleger begannen, außerhalb der öffentlichen Märkte nach höheren Renditen zu suchen. Diese Nachfrage führte dazu, dass Vermögensverwalter wieder begannen, ihr Kapital für Immobilien-, Private-Debt- oder Infrastrukturprojekte einzusetzen.

Die Anpassung an neue Technologien durch generative Künstliche Intelligenz oder Automatisierung wird immer entscheidender, um die Wettbewerbsfähigkeit aufrechtzuerhalten oder zu verbessern. Darüber hinaus blieben Produktinnovationen und ein größerer Fokus auf maßgeschneiderte Kundenlösungen ein wichtiger Faktor für zukünftiges Wachstum.

Nachhaltigkeit blieb weiterhin ein zentrales Thema für die Vermögensverwaltungsbranche. Im Jahr 2024 verzeichneten globale nachhaltige Investmentfonds weiterhin positive Nettomittelzuflüsse, jedoch niedriger als im Jahr 2023 und niedriger als der breitere Markt mit großer Volatilität in den einzelnen Regionen. Das globale Vermögen nachhaltiger Fonds ist im Jahr 2024 um 8% auf 3,2 Mrd USD gestiegen, wobei 84% des Vermögens auf Europa entfielen.

Der deutsche Markt für Investmentfonds und Vermögensverwaltung zeigt gemäß der BVI Investmentstatistik für Dezember 2024 mit EUR 1.441,2 Mrd (Vj. EUR 1.251,1 Mrd) verwalteten Vermögen für Publikumsfonds einen deutlichen Anstieg. Dies ist vor allem auf das stark verbesserte Marktumfeld im gesamten Jahresverlauf zurückzuführen, nachdem die Fed erste Zinssenkungen bereits Anfang 2024 in Aussicht gestellt hat. Der Bereich der Spezialfonds zeigt mit EUR 2.016,7 Mrd. (Vj. EUR 1.918,5 Mrd) verwalteten Vermögen ebenfalls einen Anstieg.

2.2. Geschäftsverlauf

Am 31. Dezember 2024 verwaltete die Gesellschaft 80 (Vj. 85) Retailfonds und 140 (Vj. 143) institutionelle Fonds. Aufgrund des im Jahresverlauf positiveren Marktumfeldes hat sich das verwaltete Fondsvolumen von EUR 130,8 Mrd per 31.12.2023 auf EUR 138,5 Mrd per 31.12.2024 erhöht.

Gemäß BVI hat die DWS-Gruppe ihre Führungsrolle am deutschen Retailmarkt mit 30,1% (Vj. 28,0%) ausgebaut und gehört auch im institutionellen Bereich weiterhin zu den führenden Anbietern.

Im Vorjahr hat die Gesellschaft Geschäftsanteile an der Prof. Weber GmbH gekauft, die die Markenrechte für die Marke „ARERO“ hielt. Die Prof. Weber GmbH wurde im Januar 2024 auf die DWS Investment GmbH verschmolzen.

Die Gesellschaft beschäftigte in 2024 durchschnittlich 418 Mitarbeiterinnen und Mitarbeiter (Vj. 431).

Zentraler Fokus der Asset Management Strategie für die Gesellschaft liegt weiterhin in der Steuerung des Produktangebotes und der Erzielung nachhaltig positiver Produktperformance.

2.3. Ertragslage

Wesentliche finanzielle Ertragskomponenten der Gesellschaft sind volumenabhängige Provisionserträge aus der Verwaltung von Investmentfonds und dem Portfoliomanagement. Die Ertragslage der Gesellschaft hängt daher weitgehend von der Entwicklung der Kapitalmärkte, dem Anlageerfolg des Portfoliomanagements und dem Absatzerfolg ab.

Die Provisionserträge belaufen sich auf EUR 1.885,2 Mio (Vj. EUR 1.623,5 Mio) und enthalten im Wesentlichen Erträge aus der Verwaltung eigener Fonds bzw. Erträge aus der individuellen Vermögensverwaltung sowie dem Absatz bzw. der Verwahrung von Fondsanteilen. Der Anstieg gegenüber dem Vorjahr ist i.W. auf erhaltene erfolgsabhängige Managementvergütungen (Performance Fees) sowie im Jahresdurchschnitt gestiegene verwaltete Vermögenswerte zurückzuführen. Für eine nähere Darstellung der Provisionserträge verweisen wir auf die Ausführungen im Anhang.

Die Provisionsaufwendungen beinhalten im Wesentlichen Aufwendungen für bestehende Vertriebs- und Beratungsk Kooperationen. Sie liegen 2024 korrespondierend mit der Ertragsentwicklung bei den Verwaltungsvergütungen mit EUR 699,9 Mio über Vorjahresniveau (Vj. EUR 634,6 Mio). Für eine nähere Darstellung der Provisionsaufwendungen verweisen wir auf die Darstellung im Anhang.

Das Nettoprovisionsergebnis – der bedeutsamste finanzielle Leistungsindikator der Gesellschaft – beläuft sich auf EUR 1.185,3 Mio (Vj. EUR 988,9 Mio). Der Anstieg gegenüber dem Vorjahr ist i.W. auf Zuwächse der Erträge aus der Verwaltung eigener Fonds und den Erträgen aus der individuellen Vermögensverwaltung zurückzuführen. Die Vorjahresprognose ging von einem leicht rückläufigen Nettoprovisionsergebnis aus („Dem erwarteten Anstieg des Marktniveaus in 2024 steht ein anhaltender Margendruck und eine konservative Planung bei der erfolgsabhängigen Vergütung gegenüber, so dass wir von einem leicht sinkenden Nettoprovisionsergebnis in 2024 gegenüber 2023 ausgehen“).

Die allgemeinen Verwaltungsaufwendungen liegen mit EUR 458,5 Mio unter dem Vorjahresniveau (Vj. EUR 471,1 Mio). Sie setzen sich aus Personalaufwand in Höhe von EUR 96,1 Mio (Vj. EUR 104,4 Mio) und anderen Verwaltungsaufwendungen in Höhe von EUR 362,5 Mio (Vj. EUR 366,8 Mio) zusammen. Der Rückgang des Personalaufwands ist im Wesentlichen auf die deutlich geringeren Aufwendungen für Altersversorgung zurückzuführen. Die anderen Verwaltungsaufwendungen sind i.W. aufgrund niedriger Konzernumlagen geringer als im Vorjahr.

Das nach HGB bestimmte Aufwand-Nettoprovision-Verhältnis der Gesellschaft beträgt 38,9% und hat sich gemessen am Vorjahreswert von 47,7% deutlich verbessert. Der Rückgang ist insbesondere auf die gestiegenen Provisionserträge und die rückläufigen Verwaltungsaufwendungen zurückzuführen.

Das Zinsergebnis konnte aufgrund der positiven Zinsentwicklung von EUR 16,6 Mio auf EUR 33,7 Mio gesteigert werden. Der wesentliche Posten sind die gestiegenen Zinserträge aufgrund der Guthaben aus dem Cash Pool Vertrag mit der DWS KGaA.

Die Beteiligungserträge weisen die vereinnahmten Ausschüttungen der Tochtergesellschaft DWS Investment S.A., Luxemburg, aus. Diese sind gegenüber dem Vorjahr um EUR 4,4 Mio auf EUR 4,6 Mio zurückgegangen.

Die Ertragslage ist im Wesentlichen von dem Anstieg des Nettoprovisionsergebnisses und von den positiven Effekten aufgrund der Zinsentwicklung in 2024 geprägt. Das Geschäftsjahr schließt mit einem Jahresergebnis von EUR 732,1 Mio ab (Vj. EUR 573,5 Mio). Das Jahresergebnis ist aufgrund des bestehenden Gewinnabführungsvertrages an die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, abzuführen.

2.4. Finanz- und Vermögenslage

Die Finanz- und Vermögenslage der Gesellschaft ist geordnet und im Wesentlichen geprägt durch ausreichendes Eigenkapital und eine gute Liquiditätssituation. Die Zahlungsfähigkeit der Gesellschaft war jederzeit gewährleistet.

Die wesentlichen Vermögenspositionen der Gesellschaft bestehen aus Sonstigen Vermögensgegenständen (hier im Wesentlichen Guthaben aus dem Cash Pool Vertrag mit der DWS KGaA) und zum Bilanzstichtag noch nicht vereinnahmten Managementvergütungen aus dem Dezember des Geschäftsjahres sowie aus Anleihen, Aktien und nicht festverzinslichen Wertpapieren, kurzfristigen Forderungen an Kunden und immateriellen Anlagewerten (Vj. Anteilen an verbundenen Unternehmen) in Höhe von insgesamt EUR 1.655,5 Mio (Vj. EUR 1.582,8 Mio). Der Anteil dieser wesentlichen Vermögenspositionen beläuft sich auf 99,6% (Vj. 99,7%) der Bilanzsumme.

Die Sonstigen Verbindlichkeiten in Höhe von EUR 806,1 Mio (Vj. EUR 679,5 Mio) bestehen im Wesentlichen aus kurz- bis mittelfristig konzerninternen Verbindlichkeiten unter welchen auch die Gewinnabführung an die DWS Beteiligungs GmbH, Frankfurt am Main, ausgewiesen ist. Der Anstieg der Sonstigen Verbindlichkeiten resultiert im Wesentlichen aus der höheren konzerninternen Verbindlichkeit für die Gewinnabführung und dem Anstieg der Verbindlichkeiten aus Konzernumlagen.

Die Rückstellungen in Höhe von EUR 462,4 Mio (Vj. EUR 453,8 Mio) bestehen im Wesentlichen aus Rückstellungen im Personalbereich einschließlich Pensionsrückstellungen und übrigen Rückstellungen (u.a. für Vertriebsprovisionen und gruppeninterne Leistungsverrechnungen). Zudem hat die Gesellschaft im Zusammenhang mit der Auflegung von Altersvorsorgeprodukten Kapitalerhaltungszusagen gegeben, welche durch entsprechende Rückstellungen in voller Höhe gedeckt sind. Für eine nähere Darstellung der Eventualverbindlichkeiten aus diesen Kapitalerhaltungszusagen verweisen wir auf die Darstellung im Anhang. Die Rückstellungen sind ausreichend bemessen.

Am 18. Dezember 2024 wurde das Nachrangdarlehen über EUR 60,0 Mio (Vj. EUR 60,0 Mio), welches als Maßnahme zur weiteren Kapitalunterstützung seitens der DWS KGaA ausgereicht wurde, vollständig zurückgeführt.

Das Eigenkapital der Gesellschaft beläuft sich wie im Vorjahr auf EUR 393,6 Mio.

Bei einer Bilanzsumme von rd. EUR 1.662,2 Mio (Vj. EUR 1.588,0 Mio) beläuft sich der Anteil des Eigenkapitals auf 23,7% (Vj. 24,8%).

Die Zahlungsfähigkeit der Gesellschaft war jederzeit gewährleistet und die Gesellschaft konnte ihre finanziellen Verpflichtungen jederzeit erfüllen. Der Überschuss der liquiden Mittel als Saldo der kurzfristigen Forderungen abzüglich der kurzfristigen Verbindlichkeiten beträgt zum Bilanzstichtag EUR 578,3 Mio (Vj. EUR 592,7 Mio). Der Rückgang im Vergleich zum Vorjahr ist i. W. auf den Anstieg der Sonstigen Verbindlichkeiten zurückzuführen, aufgrund der höheren konzerninternen Verbindlichkeit für die Gewinnabführung. Der Überschuss der liquiden Mittel besteht i. W. aus den Guthaben aus dem Cash Pool Vertrag mit der DWS KGaA.

Die Vermögens- und wirtschaftliche Lage der Gesellschaft ist geordnet und vor dem Hintergrund des geschilderten Markt- und Branchenumfelds als insgesamt zufriedenstellend zu beurteilen.

2.5. Finanzielle und nichtfinanzielle Leistungsindikatoren

Der bedeutsamste finanzielle Leistungsindikator der Gesellschaft (Netto-Provisionsergebnis) wurde unter Punkt 2.3 – Ertragslage bereits diskutiert.

Bedeutsame nichtfinanzielle Leistungsindikatoren sind neben dem verwalteten Fondsvolumen (siehe hierzu auch Punkt 2.2 – Geschäftsverlauf) die Performance der Produkte und das Serviceangebot. Die Planung und Steuerung dieser nichtfinanziellen Leistungsindikatoren erfolgt jedoch auf gesellschaftsübergreifender Ebene der DWS Gruppe unter Einbindung der Geschäftsführung der DWS Investment GmbH.

Auch in 2024 erhielt die DWS Gruppe wieder eine Vielzahl von Auszeichnungen für die Produktplatte und den Stand des Serviceangebotes.

Eine weiterhin ziel- und leistungsorientierte Personalpolitik soll bei den Mitarbeiterinnen und Mitarbeitern auf allen Ebenen der Gesellschaft ein unternehmerisches Denken fördern. Unterstützt wird dies durch variable Vergütungskomponenten, die sich an der Erreichung individueller- und gruppenbezogener sowie langfristiger Leistungsziele orientieren. Darüber hinaus sind auch entsprechende Ausbildungs- und Fortbildungsmaßnahmen für die Mitarbeiterinnen und Mitarbeiter der Gesellschaft sowie der DWS Gruppe und der Deutsche Bank Gruppe zu nennen.

3. Prognose-, Chancen- und Risikobericht

3.1. Risikobericht

Die Geschäftstätigkeit der Gesellschaft erfordert ein adäquates Risikomanagementsystem. Hierbei ist die Gesellschaft insbesondere in das konzernweite Risikomanagementsystem der DWS Gruppe sowie der Deutsche Bank Gruppe einbezogen.

Das Risikomodell erfasst alle relevanten Risikoarten (insbesondere operationelle Risiken, Markt-, Adressausfall- und Liquiditätsrisiken) und den Risikomanagementprozess bestehend aus Risikostrategie, Identifizierung, Analyse, Kommunikation und Steuerung.

Die strategische Risikoausrichtung wird unter Berücksichtigung der konzernweiten Einbindung und Verantwortlichkeit der Geschäftsführung festgelegt. Der Risikoappetit, welcher

quantitative und qualitative Maßnahmen für die Geschäftstätigkeit der DWS Investment GmbH festlegt und in das Risk Management Framework der DWS eingebettet ist, wird im Risikoappetit-Statement festgelegt und durch die Geschäftsleitung jährlich genehmigt. Die Risikoposition der Gesellschaft wird mittels systematischer Identifizierung von Risikopotentialen gesteuert. Zudem werden auf Basis regelmäßig durchgeführter Risikoanalysen und deren Kommunikation entsprechende Maßnahmen eingeleitet.

Die Gesellschaft hat die Compliance- und Audit-Funktionen an die DWS KGaA ausgelagert. Die Compliance und Audit-Abteilungen bei der DWS KGaA sind in das von der Deutsche Bank Gruppe entwickelte Konzept für Compliance und Audit eingebunden und nehmen ihre Aufgaben unabhängig, risikoorientiert und prozessunabhängig wahr.

Risiken, welche den Fortbestand der Gesellschaft gefährden könnten, sind nicht erkennbar.

3.1.1. Nichtfinanzielles Risiko

Das nichtfinanzielle Risiko umfasst das operationelle Risiko sowie das Reputationsrisiko.

Operationelles Risiko ist die Gefahr von Verlusten, die infolge der Unangemessenheit oder des Versagens von internen Prozessen und Systemen, durch menschliches Versagen oder infolge externer Ereignisse, einschließlich des Rechtsrisikos, eintreten. Diese Definition umfasst keine Geschäfts- und Reputationsrisiken.

Das Reputationsrisiko ist das Risiko möglicher Schäden an unserer Marke und unserem Ruf. Das damit verbundene Risiko beziehungsweise die Auswirkung auf unsere Erträge, unser Kapital oder unsere Liquidität entsteht durch Assoziationen, Handlungen oder Nichthandlungen, die von Stakeholdern als unangemessen, unmoralisch oder nicht mit unserem Verhaltenskodex (Code of Conduct) vereinbar wahrgenommen werden könnten.

Nichtfinanzielle Risiken sind unserem Geschäftsmodell inhärent. Wir haben interne Risikosteuerungs- und Kontrollprozesse implementiert, nutzen Risikosteuerungsinstrumente sowie -konzepte. Unser integrierter Ansatz über den Risikomanagement Lebenszyklus hinweg ermöglicht eine fundierte Identifizierung, Bewertung, Minderung und Überwachung der wichtigsten nichtfinanziellen Risiken. Jegliches Versagen in Bezug auf wichtige nichtfinanzielle Risiken, durch externe oder interne Faktoren beeinflusst, könnte erhebliche finanzielle, regulatorische oder Reputationsauswirkungen haben.

Unser Geschäft ist im Wesentlichen den nachfolgenden nichtfinanziellen Risiken ausgesetzt:

– Treuhänderische Verpflichtungen: Als Vermögensverwalter sind wir dem Risiko ausgesetzt, dass wir unsere treuhänderischen Verpflichtungen, die Interessen unserer Kunden immer an erste Stelle zu stellen, nicht einhalten. Das erfordert eine Abwägung zwischen den verschiedenen Interessen, um unangemessene Konflikte zu vermeiden. Dabei müssen wir bestimmte Veröffentlichungsanforderungen, regulatorische Anforderungen, Prinzipien und vertragliche Vereinbarungen sowie bestimmte Veröffentlichungspflichten berücksichtigen.

– Informationssicherheit: Wir sind dem Risiko ausgesetzt, dass unser Geschäft nicht ausreichend vor Informationssicherheitsrisiken wie etwa gezielten Cyberangriffen geschützt ist. Die Finanzindustrie ist einem weiterhin erhöhten Bedrohungspotential durch Cyberangriffe und anderen Formen der Internetkriminalität, auch vor dem Hintergrund der geopolitischen Entwicklung und des technologischen Fortschritts, ausgesetzt. Direkte oder indirekte gezielte

Angriffe können unsere Fähigkeit beeinträchtigen, unseren treuhänderischen Verpflichtungen gegenüber unseren Kunden zuverlässig nachzukommen.

– Transformation: Der Aufbau einer hybriden Infrastruktur mit der Deutschen Bank könnte wesentliche Auswirkungen auf unser Risikoprofil im Hinblick auf strategische wie auch operative Risiken haben. Im Hinblick auf nichtfinanzielle Risiken sind wir Transformationsrisiken ausgesetzt, da wir ausgewählte operative Plattformen ersetzen, neue Technologien (einschließlich der Nutzung künstlicher Intelligenz) einführen und mit neuen externen Dienstleistern zusammenarbeiten. Alle Aktivitäten in diesem Zusammenhang werden engmaschig überwacht, um sicherzustellen, dass angemessene Kontrollen und Sicherheitsvorkehrungen zum Schutz unseres Unternehmens, unserer Mitarbeitenden und unserer Kunden, im Einklang mit regulatorischen Vorgaben, vorhanden sind.

– Regulatorische Entwicklungen: Die laufende Weiterentwicklung der regulatorischen Anforderungen für die Asset Management Industrie, wie z. B. in Bezug auf Nachhaltigkeit, Veröffentlichungen zur Informationstechnologie oder Aufbewahrungspflichten, stellen uns vor Herausforderungen hinsichtlich der zeitnahen Identifikation, Interpretation und Implementierung. Die Nichteinhaltung der für uns geltenden Gesetze und Vorschriften könnte uns einem materiellen nichtfinanziellen Risiko aussetzen.

– Dienstleister: Dienstleister unterstützen uns dabei, erfolgreich unsere Geschäftsaktivitäten zu erbringen und unseren treuhänderischen Verpflichtungen nachzukommen. Die Abhängigkeit von unseren Zulieferern hat sich in den letzten Jahren erhöht. Unzureichende Überwachung von Zulieferern kann sich nachteilig auf unsere Geschäftsstabilität auswirken.

Die Steuerung nichtfinanzieller Risiken folgt dem Konzept der drei Verteidigungslinien (LoD) mit dem Ziel, den Konzern, unsere Kunden und Aktionäre vor dem Risiko wesentlicher finanzieller, regulatorischer oder Reputationsschäden zu schützen. Das Konzept soll sicherstellen, dass alle unsere nichtfinanziellen Risiken identifiziert und abgedeckt werden, die Verantwortlichkeiten für die Steuerung nichtfinanzieller Risiken klar zugeordnet sind und Risiken im besten und langfristigen Interesse unseres Geschäfts und unserer Stakeholder bewusst eingegangen und gesteuert werden. Das drei LoD-Konzept und seine Grundsätze gelten auf allen Ebenen der Organisation.

Die Identifizierung, Bewertung und Entscheidung zur aktiven Steuerung des Operationellen Risikos sind fortwährend zu gewährleisten. Die Gesellschaft unterliegt hierzu den Vorgaben der DWS Gruppe, die sich an den Vorgaben der Deutsche Bank Gruppe orientiert.

Zur Steuerung unserer nichtfinanziellen Risiken definiert das Operational Risk Management Framework zusammenhängende Instrumente und Verfahren, die auf das Rahmenwerk des Deutsche-Bank-Konzerns abgestimmt sind. Das Operational Risk Management Framework wurde entwickelt, um einen umfassenden Ansatz für das Management der wichtigsten nichtfinanziellen Risiken über den gesamten Lebenszyklus der Risikosteuerung hinweg bereitzustellen. Dieser Ansatz ermöglicht es uns, unser nichtfinanzielles Risikoprofil vor dem Hintergrund unseres Risikoappetits zu bestimmen, nichtfinanzielle Risikobereiche und Risikokonzentrationen systematisch zu identifizieren und risikomindernde Maßnahmen und Prioritäten zu definieren. Unser Ansatz zur Identifizierung und Folgenabschätzung zielt darauf ab, sicherzustellen, dass wir die Auswirkungen dieser Risiken auf unsere Finanzergebnisse, langfristigen strategischen Ziele und unsere Reputation mindern. Schlüsselkonzepte und Prozesse für die Steuerung unserer nichtfinanziellen Risiken sind die Verlustdatensammlung,

Lesson-Learned-Analysen, Szenario-Analysen, die Überwachung einer nachhaltigen Risikominderung, Transformationsrisikobewertungen sowie Risiko- und Kontrollbewertungen.

Zur Quantifizierung der Operationellen Risiken wird auf DWS Gruppenebene ein Loss-Distribution Ansatz verwendet; auf DB Gruppenebene erfolgt ein fortgeschrittener Messansatz (Advanced Measurement Approach), der ebenfalls einem Loss-Distribution Ansatz entspricht.

Wir haben ein dezidiertes Rahmenwerk für das Management von Reputationsrisiken, welches den Prozess, inklusive der Rollen und Verantwortungen zur Unterstützung der Identifikation, Bewertung, Verwaltung und Berichterstattung von Reputationsrisiken darlegt. Das Reputational Risk Committee der DB Gruppe ist der Ausschuss, der für eine proaktive Entscheidungsfindung sowie Überwachung, Steuerung und Koordination des Managements von Reputationsrisiken zuständig ist.

Wir streben danach sicherzustellen, dass das Reputationsrisiko mit unserer Geschäftsstrategie und dem Gesamtrisikoprofil übereinstimmt. Das Reputationsrisiko kann nicht gänzlich verhindert werden und hängt unter anderem von unvorhersehbaren Änderungen in der Wahrnehmung von Praktiken durch verschiedene Stakeholder wie Öffentlichkeit, Kunden, Aktionäre und Aufsichtsbehörden ab. In Übereinstimmung mit unserer treuhänderischen Verantwortung bemühen wir uns, das Reputationsrisiko unseres Unternehmens gegen das wirtschaftliche Interesse unserer Kunden abzuwägen. Wir haben keinen Appetit für Verstöße gegen Gesetze und Vorschriften, einschließlich Sanktionen und Embargos.

3.1.2. Rechtsrisiken

Die Staatsanwaltschaft Frankfurt ermittelt weiterhin zu ESG-bezogenen Themen. Wir befinden uns in Gesprächen mit der Staatsanwaltschaft, um das ESG-Verfahren abzuschließen, wobei ein Ergebnis noch nicht feststeht.

Zivilrechtlich wurden Gesellschaften des DWS-Konzerns von vereinzelt Fondsanlegern in Bezug auf Investitionen in deutsche und luxemburgische Fonds verklagt. Neben der DWS sind weitere Kapitalverwaltungsgesellschaften von derartigen Klagen betroffen. Diese beziehen sich auf die Geltung und Wirksamkeit von einzelnen Klauseln in Anlagebedingungen und im Speziellen der Kostenklauseln. Wir verteidigen uns gegen die wenigen noch anhängigen Klagen. Der Ausgang dieser Verfahren ist gegenwärtig noch nicht absehbar. Negative Gerichtsentscheidungen könnten über die einzelnen Gerichtsverfahren hinaus Auswirkungen haben, deren Ausmaß derzeit nicht zuverlässig eingeschätzt werden kann.

3.1.3. Sonstige Risiken

Makroökonomie:

Die politische Unsicherheit hat nach den US-Wahlen im Jahr 2024 deutlich zugenommen. Insbesondere die aktive Handels- und Außenpolitik der neuen US-Regierung stellt ein erhebliches Risiko für die Weltwirtschaft dar. Eine Tendenz zur stärkeren Verfolgung nationaler Interessen und Schutzmaßnahmen auf Kosten multilateraler Rahmenwerke und Organisationen würde die Unsicherheit erhöhen, das Wirtschaftswachstum belasten und könnte die Inflation erheblich beeinflussen. Große Volkswirtschaften innerhalb der EU, insbesondere Deutschland, stehen vor Wahlen und Herausforderungen mit instabilen parlamentarischen Mehrheiten. Ein potenzieller Mangel an Führung könnte die politische Entscheidung der EU erschweren, z. B. in Bezug auf Umgestaltung des Haushalts, die Sicherheit der Verteidigung und

wirtschaftspolitische Reformen. Diese Auswirkungen könnten durch geopolitische Konflikte im Nahen Osten, den russischen Krieg in der Ukraine oder die Spannungen zwischen China und Taiwan verstärkt werden. Diese Entwicklung könnte Auswirkungen auf Lieferketten und Rohstoffpreise haben. Die Aussichten im Zusammenhang mit dem russischen Krieg haben sich weiter verkompliziert. Das Risikoszenario hat sich von einem Zermürbungskrieg zu einem zunehmenden Risiko entwickelt, in welchem die Ukraine Regionen an Russland verliert. Die Situation bestätigt die Sicherheitsbedenken in Osteuropa und könnte die Risikoprämien erhöhen. Eine höhere Inflation würde die Zentralbanken dazu veranlassen, wieder in einen Zinserhöhungszyklus einzutreten und das Risiko einer weltweiten Rezession erhöhen.

Die Tragfähigkeit der Schulden ist nach wie vor besorgniserregend und stellt ein Risiko für die Finanzstabilität dar. Die öffentliche Verschuldung befindet sich weiterhin auf Rekordniveau und die Möglichkeit einer Reduzierung bleibt begrenzt, da der Bedarf an Ausgaben für Verteidigung, Soziales, Infrastruktur und Klimawandel hoch bleibt. Auch Teile des Privatsektors haben sich während des Niedrigzins-umfelds des vergangenen Jahrzehnts hoch verschuldet und könnten bei Fälligkeit von Schuldenfinanzierung mit Zahlungsausfällen konfrontiert werden. Schwellenländer, die sich in erheblichem Umfang in Fremdwährung verschulden, sind anfällig für Zinsschwankungen.

Eine Verschlechterung des wirtschaftlichen Umfelds und eine erhöhte Unsicherheit könnten eine höhere Volatilität und ein Abwärtspotenzial für die Finanzmärkte bedeuten. Währenddessen könnte die Risikobereitschaft der Anleger abnehmen, der Verkaufsdruck steigen und folglich zu Liquiditätsengpässen in bestimmten Marktsegmenten kommen. Diese Effekte könnten zu einer negativen Performance, geringeren verwalteten Vermögenswerten und entsprechend geringeren Gebühreneinnahmen an den jeweiligen Märkten führen. Zudem könnten sich negative Auswirkungen auf die Ergebnisse unserer Geschäftstätigkeit und unser Geschäft mit oder in den jeweiligen Ländern sowie auf unsere strategischen Pläne ergeben.

Digitalisierung:

Durch grundlegende Veränderungen und Trends im Kundenverhalten sowie durch neue digitale Technologien befindet sich die Vermögensverwaltungsbranche in einem anhaltenden Wandel. Wir wollen auf diese primär digital getriebenen Veränderungen die richtigen Antworten finden, aber dies erfordert eine fokussierte Ausrichtung unseres Unternehmens auf Technologie und Daten. Wenn wir die Suche nach diesen Antworten nicht aktiv vorantreiben, besteht die Gefahr, dass andere Anbieter uns Marktanteile abnehmen und unser Wachstum behindern. Zum Beispiel nutzen jüngere Kunden weiterhin häufiger Neo-Broker und kaufen Anlageprodukte selbstbestimmt, anstatt auf Basis der traditionellen Anlageberatung und konzentrieren sich vermehrt auf Sparpläne.

Während wir einen deutlichen Fortschritt bezüglich der regulatorischen Rahmenbedingungen und des Kunden- und Verbraucherschutzes durch die Einführung von MiCAR sehen, bleiben der allgemeine regulatorische Rahmen und rechtliche Implikationen mit Hinblick auf die Digitalisierung in gewissem Umfang unsicher. Mit zunehmender Digitalisierung könnten Cyberangriffe zu Technologieausfällen, Sicherheitslücken, unberechtigtem Zugriff, Datenverlust oder -zerstörung oder zum Ausfall von Diensten führen. Wir gehen davon aus, dass unsere Geschäftstätigkeiten einen wachsenden Bedarf an Investitionen in digitale Infrastruktur, Produkt- und Prozessressourcen haben werden, um das Risiko eines potenziellen Marktanteilverlusts zu verringern.

Nachhaltigkeit:

Wir beobachten eine differenzierte Kundennachfrage nach Produkten und Dienstleistungen, die ESG-Faktoren berücksichtigen. Darüber hinaus entwickelt sich das regulatorische Umfeld kontinuierlich weiter, was die Notwendigkeit mit sich bringt, unser Produktangebot sowie

unsere Anlagemöglichkeiten weiterzuentwickeln, um den sich ändernden Kundenanforderungen und regulatorischen Anforderungen gerecht zu werden.

Im Jahr 2024 setzten die Aufsichtsbehörden die Prüfung potenziell ungenauer, vager oder irreführender Aussagen in Bezug auf die Berücksichtigung von Nachhaltigkeitsfaktoren in Anlageprozessen oder Produktmerkmalen fort. Darüber hinaus führen regionale regulatorische Unterschiede und unterschiedliche Marktstandards zu einem erhöhten regulatorischen Risiko und höheren Kosten bei der Bearbeitung regulatorischer Anfragen und Anforderungen an erweiterte Offenlegungen. Die oben genannten Auswirkungen können einen Einfluss auf verschiedene traditionelle Risikoarten haben, einschließlich, aber nicht beschränkt auf strategische und nichtfinanzielle Risiken. Wenn der Eindruck entsteht, dass wir Stakeholder über unsere Geschäftsaktivitäten in die Irre führen oder wenn wir unsere erklärten Netto-Null-Ziele nicht erreichen, könnten wir einem Reputationsrisiko ausgesetzt sein, das zu Reputationsschäden führt und sich auf unsere mittelfristigen Wachstumsziele für verwaltetes Vermögen und unsere Fähigkeit zur Umsatzgenerierung auswirkt. Um diesen sich verändernden regulatorischen und Kundenerwartungen gerecht zu werden, implementieren und entwickeln wir ESG-bezogene Richtlinien, Daten, Methoden und Prozesse kontinuierlich weiter.

Regulierung und Aufsicht:

Regulatorische Reformen und eine verstärkte regulatorische Kontrolle im Allgemeinen hatten und haben erhebliche Auswirkungen auf uns und können unser Geschäft und unsere Fähigkeit, strategische Pläne umzusetzen beeinträchtigen.

Diese Reformen können zu einer erhöhten Planungsunsicherheit, einer höheren Kostenbasis oder einem höheren Kapitalbedarf führen und somit unser Geschäftsmodell, unsere Finanz-, Vermögens- und Ertragslage sowie das Wettbewerbsumfeld im Allgemeinen erheblich beeinträchtigen. Dieses Risiko kann sich negativ auf unsere mittelfristigen Ziele auswirken.

Abhängig von den Änderungen des bestehenden Rahmens für Kleinanleger, die als Teil der EU-Kleinanlegerstrategie mit möglichen Änderungen von MiFID, UCITS oder PRIIPS, umgesetzt werden, könnten die Produktlandschaft und die Struktur der Finanzindustrie insgesamt (einschließlich der Gestaltung und des Vertriebs von Finanzprodukten) betreffen. Insbesondere das diskutierte vollständige Verbot von Anreizen für Vertriebspartner würde den Finanzsektor in der EU, einschließlich uns als Vermögensverwalter, erheblich beeinträchtigen. Zusammen mit der Branche sind wir der Meinung, dass der Weg des Anlegers vereinfacht werden sollte, indem redundante Tests, übermäßige Offenlegungen und Einheitslösungen für Benchmarks, die Investitionen übermäßig komplex machen und Kleinanleger abschrecken, abgeschafft werden sollten. Der Fokus sollte auf relevanten Offenlegungen liegen, welche die wichtigsten Vorteile hervorheben, wie ESG-Charakteristiken, qualitative Aspekte, welche die Anlageentscheidung steuern, und die Bedeutung von langfristigen Investitionen hervorheben.

Anlage liquider Mittel:

Die DWS Investment GmbH ist Teil des Cash Pools, der in 2023 in der DWS Group GmbH & Co. KGaA etabliert wurde, um die EUR-Liquidität unserer wesentlichen deutschen Tochtergesellschaften zu konzentrieren.

Dabei werden täglich die Kontoguthaben der Gesellschaft automatisch an die DWS Group GmbH & Co. KGaA übertragen bzw. ein etwaiger negativer Saldo ausgeglichen. Die Geschäftsleitung der Gesellschaft erhält regelmäßig eine Übersicht über die Bestände des Cash Pools.

Aufgrund ihres Geschäftsmodells hat die Gesellschaft geringes Kreditrisiko und ein stabiles Liquiditätsrisikoprofil.

Adressenausfallrisiken ergeben sich primär aus konzerninternen Forderungen an die DWS Group GmbH & Co. KGaA im Zusammenhang mit dem Cash-Pooling. Adressenausfallrisiken sind Teil der Risikotragfähigkeitsrechnung der Gesellschaft und werden durch Risikodeckungsmasse abgedeckt. Diese werden regelmäßig berechnet und an die Geschäftsleitung der Gesellschaft berichtet.

Die Überwachung der Liquiditätsrisiken erfolgt insbesondere durch die Berechnung eines Liquiditätsüberschusses durch die Abteilung Finance. Dabei wird der Liquiditätsbedarf von den liquiden Mitteln abgezogen. Diese werden regelmäßig berechnet und an die Geschäftsleitung der Gesellschaft berichtet.

Kapitalisierung:

Die Gesellschaft hat zudem zur Deckung der Pensionsverpflichtungen Anteile an von der Gesellschaft aufgelegten Investmentvermögen, die an einen Vermögenstreuhänder übertragen wurden, erworben. Hierbei handelt es sich überwiegend um Anlagen in Rentenfonds. Der beizulegende Zeitwert dieses Deckungsvermögens wird für Rechnungslegungszwecke mit den Pensionsverpflichtungen verrechnet. Der Deckungsgrad der Pensionsverpflichtungen durch diese Vermögensgegenstände wird von der Gesellschaft regelmäßig überwacht. Zum Bilanzstichtag ergibt sich wie im Vorjahr ein Passivüberhang, der unter dem Bilanzposten Rückstellungen für Pensionen und ähnliche Verpflichtungen ausgewiesen wird. Aus dem Bereich Pensionsverpflichtungen sind aktuell keine wesentlichen Risiken zu erwarten.

Im Zusammenhang mit den Kapitalerhaltungszusagen im Rahmen der Altersvorsorgeprodukte ergeben sich jedoch aufgrund der Reagibilität auf Änderungen des Zinsumfeldes dieser Produkte über mögliche Rückstellungszuführungen bzw. -auflösungen potenzielle deutliche Belastungen bzw. deutliche positive Effekte für die Ertragslage der Gesellschaft. Im Berichtsjahr wurden im Zusammenhang mit den Kapitalerhaltungszusagen von der Gesellschaft zusätzliche Rückstellungen in Höhe von EUR 51 Mio (Vj. EUR 1 Mio ertragswirksam aufgelöst) gebildet.

Um sich gegen die Auswirkungen weiter rückgehender Zinsen ökonomisch abzusichern, hat die Gesellschaft im Geschäftsjahr 2020 eine langlaufende festverzinsliche Anleihe erworben, die nach wie vor gehalten wird. Daneben besteht ein in diesem Zusammenhang abgeschlossener Zinsswap.

Sowohl die Anpassung der Rückstellung für die Kapitalerhaltungszusagen als auch die Bewertungseffekte auf die festverzinsliche Anleihe und den Zinsswap schlagen sich in der GuV nieder. Obwohl die Effekte vom Grundsatz her gegenläufig sind, kompensieren sie sich nicht vollständig, da die Absicherungsgeschäfte nur Teile der (Zins-)risiken absichern.

Für die Gesellschaft liegen die Risiken der künftigen Ertragsentwicklung hauptsächlich in einer nicht erwartungsgemäßen Entwicklung ihres verwalteten Vermögens. Ursache hierfür können sowohl ein möglicher Rückgang der Marktpreise als auch aktive Mittelabzüge durch unsere Kunden sein.

Die Entwicklung des verwalteten Vermögens sowie der Mittelzu- und -abflüsse werden seitens der Gesellschaft kontinuierlich überwacht und der Geschäftsführung kommuniziert. Hierbei werden im Rahmen regelmäßiger Stresstestanalysen auf Gesellschaftsebene die wesentlichen Risiken erfasst und quantifiziert.

Im Rahmen der Risikotragfähigkeitsanalyse stellt die Gesellschaft das Risikodeckungskapital (hier: Höhe des haftenden Eigenkapitals zzgl. des um einen Risikoabschlag geminderten Planergebnisses der Folgeperiode sowie berücksichtigungsfähige Gewinnvorräte von Tochtergesellschaften abzgl. der regulatorischen Mindestkapitalanforderungen nach §25 (4) und (6) KAGB) dem Risikokapitalbedarf regelmäßig gegenüber (hier: ökonomisches Kapital der Gesellschaft auf Basis der identifizierten Risiken mit einem Konfidenzniveau von 99 %). Die Abdeckung des Risikokapitalbedarfs durch das Risikodeckungskapital war im Geschäftsjahr durchgehend gewährleistet. Zudem überwacht die Gesellschaft kontinuierlich die aufsichtsrechtlichen Kapitalanforderungen nach § 25 KAGB, um deren Einhaltung über das Vorhandensein ausreichender Eigenmittel sicherzustellen.

3.2. Prognosebericht (inkl. Chancenbericht)

Ausblick auf die Weltwirtschaft:

Die folgenden Abschnitte geben einen Überblick über unsere Erwartungen für die Gesellschaft und ihr Geschäftsumfeld im Geschäftsjahr 2025. Die Kapitel zum Ausblick für die Weltwirtschaft und die Vermögensverwaltungsbranche spiegeln unsere allgemeinen Erwartungen hinsichtlich der zukünftigen Wirtschafts- und Branchenentwicklung wider. Sie basieren im Wesentlichen auf unserem CIO View, einer internen Prognose unseres Chief Investment Office zu makroökonomischen Themen, Finanzmärkten, einzelnen Anlageklassen und Marktrisiken. Im Rahmen unserer treuhänderischen Verantwortung nutzen wir diese Sichtweise als Grundlage für unsere Produktinvestitions- und Entwicklungsentscheidungen und teilen sie mit unseren Kunden.

Wir gehen davon aus, dass die europäische Wirtschaft weiterhin nur schwach wachsen wird, wobei sich die Wachstumstreiber jedoch abwechseln werden. So dürften der robuste Arbeitsmarkt, steigende Löhne und Gehälter sowie eine niedrigere Inflation den privaten Konsum in diesem Jahr wieder zur Stütze des Wachstums machen. Die Ausrüstungsinvestitionen dürften von den niedrigeren Zinsen profitieren. Die rückläufigen Baugenehmigungen deuten darauf hin, dass es noch einige Zeit dauern wird, bis auch von der Bauwirtschaft wieder positive Impulse für die Gesamtwirtschaft ausgehen. Die Wahl von Donald Trump zum US-Präsidenten dürfte allerdings die europäische Wirtschaft belasten, zum einen wegen der angekündigten Zölle, die auch US-Importe aus Europa treffen würden, zum anderen wegen der gestiegenen Unsicherheit über die weitere Handelspolitik und der erhöhten geopolitischen Risiken, die zu einer gewissen Investitionszurückhaltung führen dürften. Insgesamt erwarten wir für die Eurozone ein Wirtschaftswachstum von 0,7% in 2024 und knapp 1% in 2025. Die Inflationsrate dürfte in 2024 bei knapp 2,5% und in 2025 bei rund 2% liegen. Vor diesem Hintergrund dürfte die EZB die im Sommer begonnene Normalisierung der Leitzinsen schrittweise fortsetzen.

Aufgrund des Wahlausgangs in den USA und zum Teil aufgrund der besseren Dynamik in der Vergangenheit erwarten wir für die Zukunft ein robustes Wirtschaftswachstum in den USA. Gleichzeitig sind wir nicht allzu optimistisch, da die meisten Vorhaben aus dem Wahlkampf wahrscheinlich nicht umgesetzt werden können. Mit Blick auf die wichtigsten fiskalpolitischen Vorschläge betonen wir, dass die vorgeschlagene Verlängerung des „Tax Cut and Jobs Act“ eher den Status quo bis 2026 sichert als eine echte fiskalpolitische Unterstützung darstellt. Die anhaltende Unterstützung der Nachfrage und die wahrscheinlichen Auswirkungen der Zoll- und Migrationspolitik könnten weiterhin zu einer etwas höheren Inflation führen. Wir rechnen zwar nicht mit einer deutlichen Beschleunigung der Inflation, gehen aber auch nicht davon aus, dass

die US-Notenbank in der Lage sein wird, die Leitzinsen auf ein neutrales Niveau in 2025 zu senken.

Nach einem instabilen Jahresbeginn wird erwartet, dass die japanische Wirtschaft über ihre potenzielle Wachstumsrate hinauswachsen wird, wobei der private Konsum dank der erwarteten Erholung der Realeinkommen der Wachstumsmotor sein dürfte. Die Bank of Japan dürfte ihren vorsichtigen Normalisierungskurs fortsetzen und nicht nur die Leitzinsen weiter anheben, sondern auch das Volumen der Käufe von Staatsanleihen reduzieren.

Die Schwierigkeiten im ehemals dominierenden, spekulativen und verschuldeten Wohnungsmarkt bedeuten eine Belastung des Wirtschaftswachstums in China durch den Immobiliensektor, der auch im kommenden Jahr anhalten wird. Während die im Herbst 2024 angekündigten politischen Stützungsmaßnahmen die Auswirkungen im Jahr 2025 abfedern werden, ist mit der neuen US-Regierung eine weitere Runde deutlich höherer US-Zölle auf Importe aus China vom Risiko- zum Hauptszenario geworden. Der Konjunkturausblick ist nun mit erheblicher Unsicherheit behaftet. Wir gehen davon aus, dass die angedrohten neuen Zölle von 60% auf Waren aus China nicht in dieser extremen Höhe eingeführt werden. Wir unterstellen in unserer Prognose neue Zölle von 35%. Wir gehen davon aus, dass höhere Exporte in andere Länder sowie wirtschaftspolitische Stützungsmaßnahmen die negativen Auswirkungen auf die Wachstumsaussichten für 2025 auf etwa 0,5% geringeres BIP-Wachstum im Jahr 2025 begrenzen werden. Die Inflation dürfte gedämpft bleiben und von 0,5% im Jahr 2024 auf 1,3% im Jahr 2025 ansteigen. Dieser Anstieg ist hauptsächlich auf Basiseffekte zurückzuführen. Da sich das politische Unterstützungsprogramm auf Strukturreformen konzentriert, dürfte es nicht gegenläufig wirken. Es sollte aber dazu beitragen, die Befürchtung einer Deflationsspirale zu zerstreuen.

Vermögensverwaltungsbranche:

Wir glauben, dass mehrere wichtige Trends weiterhin Wachstumsmöglichkeiten für die Vermögensverwaltungsbranche bieten, aber auch Herausforderungen darstellen werden:

– Produktangebot: Die Nachfrage nach ETFs wächst weiter. Aktive ETF-Strategien verzeichnen ein weiteres deutliches Wachstum und einen Anstieg der Nettomittelzuflüsse, wodurch Vermögensverwalter ihr Produktangebot an ETFs zusätzlich zu ihren passiven Strategien ausweiten. Die Diversifizierung scheint der Haupttreiber für diese Verschiebung zu sein. Darüber hinaus investieren Vermögensverwalter auf der Suche nach höheren Renditen und Diversifikation weiterhin in alternative Anlageklassen, wobei insbesondere die Privatmärkte weiter an Dynamik gewinnen werden.

– Nachhaltigkeit: Nachhaltigkeit ist zu einem wichtigen Merkmal der Vermögensverwaltungsbranche geworden. Viele institutionelle Anleger haben ESG-Ziele und -Erwägungen in ihre Anlageziele aufgenommen, wobei immer mehr Netto-Null-Ziele festgelegt haben. Neue Vorschriften und Berichtsstandards wie die Richtlinie über die Nachhaltigkeitsberichterstattung von Unternehmen, werden die Datenqualität weiter verbessern und die Entscheidungsfindung und das Vertrauen stärken in das ESG Label. Es wird erwartet, dass die Nachfrage nach ESG-Produkten weiter von europäischen Anlegern gestützt wird, während die Nachfrage in den USA stärker fragmentiert und politisiert ist.

– Digitalisierung: Technologie steht für die meisten Vermögensverwalter nach wie vor im Fokus. Die breitere Einführung von künstlicher Intelligenz und Big Data erweitert die Produktauswahl und verbessert die Leistung und den Vertrieb, während der verstärkte Einsatz intelligenter Automatisierung dazu beiträgt, Prozesse zu vereinfachen, die Effizienz zu steigern

und Kosten zu senken. Die Digitalisierung führt auch zum Aufkommen neuer Anlageklassen und könnte möglicherweise einige alternative Anlageklassen „demokratisieren“, da Vermögensverwalter die Tokenisierung vorantreiben wollen.

– Geographische Vermögensverlagerung: Schwellenländer, vor allem in Asien, werden weiterhin wichtige Treiber des künftigen Branchenwachstums sein und neue Möglichkeiten für Vermögensverwalter bieten, da lokale Anleger ihren Anlagehorizont weltweit erweitern und nach Anlagelösungen suchen.

– Marktkonsolidierung: Die Skalierbarkeit und die Fähigkeit, vielfältige Investitionsmöglichkeiten anzubieten, sind zunehmend von zentraler Bedeutung für die Fähigkeit von Managern, sich erfolgreich am Markt zu behaupten. Vermögensverwalter sind besonders bestrebt, ihre Größe zu erhöhen und/oder neue Fähigkeiten hinzuzufügen, insbesondere in alternativen Investitionen (private Märkte) und in Fintech durch Ergänzungen, sowohl Mehrheits- als auch Minderheitsbeteiligungen und Partnerschaften.

– Margendruck: Der Druck auf Gebühren und Kosten wird anhalten, verursacht durch höhere Regulierungs- und Compliance-Kosten, verschärften Marktwettbewerb und die anhaltende Verlagerung von Anlegern hin zu groß angelegten passiven Produkten mit niedrigeren Gebühren.

– Demografische Entwicklung: Die höhere Lebenserwartung erhöht die finanzielle Belastung für die Rentensysteme, insbesondere für leistungsorientierte Pläne. Die Regierungen versuchen, auf beitragsorientierte Modelle umzusteigen, bei denen das Risiko auf den Einzelnen übertragen wird. Folglich würden Reformen der Rentensysteme den Vermögensverwaltern die Möglichkeit bieten, maßgeschneiderte Altersvorsorgeprodukte anzubieten.

Angesichts dieser Herausforderung konzentrieren wir uns weiterhin auf innovative und nachhaltige Produkte und Dienstleistungen, bei denen wir unsere Kunden im aktuellen anspruchsvollen Umfeld differenzieren und so am besten betreuen können, während wir weiterhin mit einer strengen Kostendisziplin arbeiten.

Innerhalb der DWS Gruppe bietet die Gesellschaft privaten und institutionellen Kunden ein umfassendes Leistungsspektrum.

Die Angebotspalette als Kapitalverwaltungsgesellschaft nach dem KAGB umfasst im Wesentlichen die Verwaltung von inländischen Investmentvermögen sowie die Finanzportfolioverwaltung für nationale und internationale Kunden.

In Anbetracht der aktuellen makroökonomischen Aussichten und der Herausforderungen in der Vermögensverwaltungsbranche werden wir uns auf innovative Produkte und Dienstleistungen konzentrieren, mit denen wir uns von unseren Wettbewerbern abheben und unseren Kunden den besten Service bieten können. Gleichzeitig werden wir einen disziplinierten Kostenansatz verfolgen und in Wachstum und Transformation investieren. Wir gehen weiterhin davon aus, dass unser breit diversifiziertes Geschäftsmodell uns einen angemessenen Schutz vor den aktuellen Herausforderungen bietet.

Wir erwarten, dass unser verwaltetes Vermögen Ende 2025, getrieben von einem positiven Marktausblick und moderaten Nettomittelzuflüssen, weiter steigen wird.

Dies führt, trotz eines anhaltenden Margendrucks, ebenfalls zu einem moderaten Anstieg des erwarteten Nettoprovisionsergebnisses in 2025 gegenüber 2024.

Gravierende Änderungen an den Märkten und in den Rahmenbedingungen können zu einer anderen Einschätzung führen. Dabei verweisen wir insbesondere auf die unter den sonstigen Risiken beschriebene politische und wirtschaftliche Unsicherheit und geopolitische Risiken.

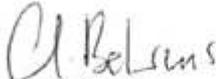
Insgesamt gehen wir für 2025 aufgrund des anhaltenden generellen Kostendrucks von stagnierenden Aufwendungen gegenüber dem Vorjahr aus.

Unter den derzeit gegebenen rechtlichen und steuerlichen Rahmenbedingungen ist kein Gefährdungspotential für die Ertrags- und Vermögensentwicklung der Gesellschaft zu erkennen.

Frankfurt am Main, 05. März 2025

Die Geschäftsführung


(Dr. Liermann)


(Behrens)


(Vedda)


(Wolff)

独立監査人の監査報告書

デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハー、フランクフルト・アム・マイン 御中

監査意見

私たちは、デーヴェーエス・インベストメント・ゲーエムベーハーの年次財務諸表、すなわち、2024年12月31日現在の貸借対照表及び2024年1月1日から12月31日までの事業年度に係る損益計算書、並びに会計処理及び評価の方法を含む注記について監査を行った。私たちはまた、2024年1月1日から12月31日までの事業年度に係る状況報告書についても監査を行った。

私たちの意見では、私たちの監査での発見事項に基づいて、

- 添付の年次財務諸表は、会社に適用されるドイツ商法の規定に全ての重要な点において準拠しており、また、ドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して会社の2024年12月31日現在の財政状態及び2024年1月1日から12月31日までの事業年度に係る経営成績についての真実かつ公正な概観を与えている。
- 添付の状況報告書は、全体としての会社の現在の状況を示している。当該状況報告書は、全ての重要な点において、年次財務諸表と整合し、ドイツの法規制を遵守し、将来の発展に関する機会及びリスクを適正に表示している。

商法第322条第3項第1文に従って、私たちは、私たちの監査の結果、当該年次財務諸表及び状況報告書の法令遵守に関するいかなる除外事項もなかったことを宣言する。

監査意見の基礎

私たちは、商法第317条及びドイツ経済監査士協会（IDW）により設定されたドイツにおいて一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して、当該年次財務諸表及び状況報告書の監査を行った。当該規定及び基準に基づく私たちの責任は、本報告書の「年次財務諸表及び状況報告書の監査に対する監査人の責任」の項において詳述している。私たちは、ドイツの商法及び職業上の法令に準拠して会社から独立しており、これらの要求に従って、私たちのドイツでのその他の職業上の責任を果たした。私たちは、当該年次財務諸表及び状況報告書に関する意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

年次財務諸表及び状況報告書に対する法定代理人及び監査役会の責任

法定代理人は、会社に適用されるドイツ商法の規定に全ての重要な点において準拠した年次財務諸表の作成、並びに年次財務諸表がドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して会社の資産、財政状態及び経営成績に関する真実かつ公正な概観を与えることに対する責任を負う。法定代理人はまた、ドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠して、不正（不正な財務報告若しくは資産の流用）又は誤謬のいずれによるかを問わず重要な虚偽表示のない年次財務諸表の作成を可能とするために法定代理人が必要と判断する内部統制に対する責任も負う。

年次財務諸表の作成に当たり、法定代理人は、継続企業として存続するための会社の能力を評価する責任を負う。また、法定代理人は、該当する場合に、継続企業に関する事項を開示する責任を負う。さらに、法定代理人は、事実的又は法的状況と矛盾しない場合、継続事業を前提とした財務報告を行う責任を負う。

法定代理人はまた、全体として、会社の状況に関する適正な概観を与え、全ての重要な点において年次財務諸表と整合し、ドイツの法的要求を遵守し、かつ将来の発展に関する機会及びリスクを適正に表示する、状況報告書の作成に対する責任を負う。さらに、法定代理人は、適用されるドイツの法的要求に準拠した状況報告書の作成、及び状況報告書における陳述のための十分かつ適切な証拠の提供を可能とするために法定代理人が必要と判断する事前措置及び対策（システム）に対する責任も負う。

監査委員会は、年次財務諸表及び状況報告書の作成に関する会社の会計プロセスを監視する責任を負う。

年次財務諸表及び状況報告書の監査に対する監査人の責任

私たちの目的は、全体としての年次財務諸表に不正又は誤謬のいずれによるかを問わず重要な虚偽表示がないかどうかについて、及び全体としての状況報告書が会社の状況に関する正確な概観を与え、全ての重要な点において年次財務諸表と整合し、監査で入手した発見事項と一致し、ドイツの法的要求を遵守し、かつ将来の発展に関する機会及びリスクを適正に表示しているかどうかについての合理的な保証を得ること、並びに年次財務諸表及び状況報告書に関する私たちの監査意見を含む監査報告書を発行することである。

合理的保証は高い水準の保証であるが、商法第317条及びドイツ経済監査士協会（IDW）により設定されたドイツにおいて一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して行った監査が、重要な虚偽表示を常に発見できることを保証するものではない。虚偽表示は不正又は誤謬によって生じる可能性があり、個別に又は集計すると、利用者が当該年次財務諸表及び状況報告書に基づいて行う経済的意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要であると判断される。

監査の過程を通じて、私たちは、職業的専門家としての判断を行使し、批判的な姿勢を維持するほか、以下を行う。

- 不正又は誤謬のいずれによるかを問わず、年次財務諸表及び状況報告書に係る重要な虚偽表示リスクを識別及び評価し、当該リスクに対応する監査手続を立案及び実施し、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。不正による重要な虚偽表示を発見できないリスクは、誤謬による重要な虚偽表示を発見できないリスクよりも高くなる。その理由は、不正には共謀、偽造、意図的な除外、虚偽の陳述又は内部統制の無効化を伴うことがあるためである。
- 状況に応じた適切な監査手続を立案するために、年次財務諸表の監査に関連する内部統制並びに状況報告書の監査に関連する取決め及び対策(システム)について理解する。但し、これは、会社のこれらのシステムの有効性に対する監査意見を表明するためではない。
- 法定代理人が適用した会計方針の適切性、並びに法定代理人が行った見積り及び関連する開示の合理性について評価する。
- 法定代理人が継続企業を前提とした会計処理を適用したことの適切性について結論付け、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業として存続するための会社の能力に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関する重要な不確実性が存在するかどうかについて結論付ける。私たちは、重要な不確実性が存在すると結論付けた場合には、監査報告書において年次財務諸表及び状況報告書での関連する情報に注意を喚起するか、又はそうした情報が不十分である場合には除外事項付意見を表明することが求められる。私たちの結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいている。但し、将来の事象又は状況により、会社が継続企業として存続できなくなる場合もある。
- 年次財務諸表の開示を含む全般的な表示、構成及び内容、並びに年次財務諸表がドイツにおいて一般に公正妥当と認められる会計原則に従って会社の資産、財政状態及び経営成績についての真実かつ公正な概観を与えるような方法で基礎となる取引や事象を表示しているかどうかを評価する。
- 状況報告書と年次財務諸表との整合性、当該報告書の法令の遵守状況、及び当該報告書が与える会社の状況に関する概観を評価する。
- 状況報告書において法定代理人が記載した将来に関する記述に対して監査手続を実施する。十分かつ適切な監査証拠に基づいて、特に、法定代理人が将来に関する記述の基礎として使用した重要な仮定を評価し、将来に関する記述がこれらの仮定から適切に導き出されていることを評価する。私たちは、将来に関する記述及び基礎となる仮定に関する個別の監査意見を表明しない。将来の事象が将来に関する記述から逸脱する重要かつ不可避のリスクが存在する。

私たちは、特に、計画した監査の範囲とその実施時期、及び監査上の重要な発見事項(監査の過程で識別した内部統制の重要な不備を含む。)について統治責任者と協議する。

フランクフルト・アム・マイン、2025年3月6日

フォーヴィス・マザー・ゲーエムベーハー & Co. KG
ヴィルトシャフツプリューフングスゲゼルシャフト
シュトイアベラートゥングゲゼルシャフト

[署名]

C19F459EA2F042E...

マルクス・モルフェルト

経済監査士

[署名]

36FD7F6DFEDD4DF...

マルティン・シュトラッヘ

経済監査士

[次へ](#)

Bestätigungsvermerk des unabhängigen Abschlussprüfers

An die DWS Investment GmbH, Frankfurt am Main

Prüfungsurteile

Wir haben den Jahresabschluss der DWS Investment GmbH – bestehend aus der Bilanz zum 31. Dezember 2024 und der Gewinn- und Verlustrechnung für das Geschäftsjahr vom 1. Januar bis zum 31. Dezember 2024 sowie dem Anhang, einschließlich der Darstellung der Bilanzierungs- und Bewertungsmethoden – geprüft. Darüber hinaus haben wir den Lagebericht der DWS Investment GmbH für das Geschäftsjahr vom 1. Januar bis zum 31. Dezember 2024 geprüft.

Nach unserer Beurteilung aufgrund der bei der Prüfung gewonnenen Erkenntnisse

- entspricht der beigefügte Jahresabschluss in allen wesentlichen Belangen den deutschen, für Kapitalgesellschaften geltenden handelsrechtlichen Vorschriften und vermittelt unter Beachtung der deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Buchführung ein den tatsächlichen Verhältnissen entsprechendes Bild der Vermögens- und Finanzlage der Gesellschaft zum 31. Dezember 2024 sowie ihrer Ertragslage für das Geschäftsjahr vom 1. Januar bis zum 31. Dezember 2024 und
- vermittelt der beigefügte Lagebericht insgesamt ein zutreffendes Bild von der Lage der Gesellschaft. In allen wesentlichen Belangen steht dieser Lagebericht in Einklang mit dem Jahresabschluss, entspricht den deutschen gesetzlichen Vorschriften und stellt die Chancen und Risiken der zukünftigen Entwicklung zutreffend dar.

Gemäß § 322 Abs. 3 Satz 1 HGB erklären wir, dass unsere Prüfung zu keinen Einwendungen gegen die Ordnungsmäßigkeit des Jahresabschlusses und des Lageberichts geführt hat.

Grundlage für die Prüfungsurteile

Wir haben unsere Prüfung des Jahresabschlusses und des Lageberichts in Übereinstimmung mit § 317 HGB unter Beachtung der vom Institut der Wirtschaftsprüfer (IDW) festgestellten deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Abschlussprüfung durchgeführt. Unsere Verantwortung nach diesen Vorschriften und Grundsätzen ist im Abschnitt „Verantwortung des Abschlussprüfers für die Prüfung des Jahresabschlusses und des Lageberichts“ unseres Bestätigungsvermerks weitergehend beschrieben. Wir sind von dem Unternehmen unabhängig in Übereinstimmung mit den deutschen handelsrechtlichen und berufsrechtlichen Vorschriften und haben unsere sonstigen deutschen Berufspflichten in Übereinstimmung mit diesen Anforderungen erfüllt. Wir sind der Auffassung, dass die von uns erlangten Prüfungsnachweise ausreichend und geeignet sind, um als Grundlage für unsere Prüfungsurteile zum Jahresabschluss und zum Lagebericht zu dienen.

Verantwortung der gesetzlichen Vertreter und des Aufsichtsrats für den Jahresabschluss und den Lagebericht

Die gesetzlichen Vertreter sind verantwortlich für die Aufstellung des Jahresabschlusses, der den deutschen, für Kapitalgesellschaften geltenden handelsrechtlichen Vorschriften in allen wesentlichen Belangen entspricht, und dafür, dass der Jahresabschluss unter Beachtung der deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Buchführung ein den tatsächlichen Verhältnissen entsprechendes Bild der Vermögens-, Finanz- und Ertragslage der Gesellschaft vermittelt. Ferner sind die gesetzlichen Vertreter verantwortlich für die internen Kontrollen, die sie in Übereinstimmung mit den deutschen Grundsätzen ordnungsmäßiger Buchführung als notwendig bestimmt haben, um die Aufstellung eines Jahresabschlusses zu ermöglichen, der frei von wesentlichen falschen Darstellungen aufgrund von dolosen Handlungen (d.h. Manipulationen der Rechnungslegung und Vermögensschädigungen) oder Irrtümern ist.

Bei der Aufstellung des Jahresabschlusses sind die gesetzlichen Vertreter dafür verantwortlich, die Fähigkeit der Gesellschaft zur Fortführung der Unternehmenstätigkeit zu beurteilen. Des Weiteren haben sie die Verantwortung, Sachverhalte in Zusammenhang mit der Fortführung der Unternehmenstätigkeit, sofern einschlägig, anzugeben. Darüber hinaus sind sie dafür verantwortlich, auf der Grundlage des Rechnungslegungsgrundsatzes der Fortführung der Unternehmenstätigkeit zu bilanzieren, sofern dem nicht tatsächliche oder rechtliche Gegebenheiten entgegenstehen.

Außerdem sind die gesetzlichen Vertreter verantwortlich für die Aufstellung des Lageberichts, der insgesamt ein zutreffendes Bild von der Lage der Gesellschaft vermittelt sowie in allen wesentlichen Belangen mit dem Jahresabschluss in Einklang steht, den deutschen gesetzlichen Vorschriften entspricht und die Chancen und Risiken der zukünftigen Entwicklung zutreffend darstellt. Ferner sind die gesetzlichen Vertreter verantwortlich für die Vorkehrungen und Maßnahmen (Systeme), die sie als notwendig erachtet haben, um die Aufstellung eines Lageberichts in Übereinstimmung mit den anzuwendenden deutschen gesetzlichen Vorschriften zu ermöglichen, und um ausreichende geeignete Nachweise für die Aussagen im Lagebericht erbringen zu können.

Der Aufsichtsrat ist verantwortlich für die Überwachung des Rechnungslegungsprozesses der Gesellschaft zur Aufstellung des Jahresabschlusses und des Lageberichts.

Verantwortung des Abschlussprüfers für die Prüfung des Jahresabschlusses und des Lageberichts

Unsere Zielsetzung ist, hinreichende Sicherheit darüber zu erlangen, ob der Jahresabschluss als Ganzes frei von wesentlichen falschen Darstellungen aufgrund von dolosen Handlungen oder Irrtümern ist, und ob der Lagebericht insgesamt ein zutreffendes Bild von der Lage der Gesellschaft vermittelt sowie in allen wesentlichen Belangen mit dem Jahresabschluss sowie mit den bei der Prüfung gewonnenen Erkenntnissen in Einklang steht, den deutschen gesetzlichen Vorschriften entspricht und die Chancen und Risiken der zukünftigen Entwicklung zutreffend darstellt, sowie einen Bestätigungsvermerk zu erteilen, der unsere Prüfungsurteile zum Jahresabschluss und zum Lagebericht beinhaltet.

Hinreichende Sicherheit ist ein hohes Maß an Sicherheit, aber keine Garantie dafür, dass eine in Übereinstimmung mit § 317 HGB unter Beachtung der vom Institut der Wirtschaftsprüfer (IDW) festgestellten deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Abschlussprüfung durchgeführte Prüfung eine wesentliche falsche Darstellung stets aufdeckt. Falsche Darstellungen können aus dolosen Handlungen oder Irrtümern resultieren und werden als wesentlich angesehen, wenn vernünftigerweise erwartet werden könnte, dass sie einzeln oder insgesamt die auf der Grundlage dieses Jahresabschlusses und Lageberichts getroffenen wirtschaftlichen Entscheidungen von Adressaten beeinflussen.

Während der Prüfung üben wir pflichtgemäßes Ermessen aus und bewahren eine kritische Grundhaltung. Darüber hinaus

- identifizieren und beurteilen wir die Risiken wesentlicher falscher Darstellungen im Jahresabschluss und im Lagebericht aufgrund von dolosen Handlungen oder Irrtümern, planen und führen Prüfungshandlungen als Reaktion auf diese Risiken durch sowie erlangen Prüfungsnachweise, die ausreichend und geeignet sind, um als Grundlage für unsere Prüfungsurteile zu dienen. Das Risiko, dass eine aus dolosen Handlungen resultierende wesentliche falsche Darstellung nicht aufgedeckt wird, ist höher als das Risiko, dass eine aus Irrtümern resultierende wesentliche falsche Darstellung nicht aufgedeckt wird, da dolose Handlungen kollusives Zusammenwirken, Fälschungen, beabsichtigte Unvollständigkeiten, irreführende Darstellungen bzw. das Außerkraftsetzen interner Kontrollen beinhalten können.
- erlangen wir ein Verständnis von den für die Prüfung des Jahresabschlusses relevanten internen Kontrollen und den für die Prüfung des Lageberichts relevanten Vorkehrungen und Maßnahmen, um Prüfungshandlungen zu planen, die unter den Umständen angemessen sind, jedoch nicht mit dem Ziel, ein Prüfungsurteil zur Wirksamkeit der internen Kontrollen der Gesellschaft bzw. dieser Vorkehrungen und Maßnahmen abzugeben.
- beurteilen wir die Angemessenheit der von den gesetzlichen Vertretern angewandten Rechnungslegungsmethoden sowie die Vertretbarkeit der von den gesetzlichen Vertretern dargestellten geschätzten Werte und damit zusammenhängenden Angaben.
- ziehen wir Schlussfolgerungen über die Angemessenheit des von den gesetzlichen Vertretern angewandten Rechnungslegungsgrundsatzes der Fortführung der Unternehmenstätigkeit sowie, auf der Grundlage der erlangten Prüfungsnachweise, ob eine wesentliche Unsicherheit im Zusammenhang mit Ereignissen oder Gegebenheiten besteht, die bedeutsame Zweifel an der Fähigkeit der Gesellschaft zur Fortführung der Unternehmenstätigkeit aufwerfen können. Falls wir zu dem Schluss kommen, dass eine wesentliche Unsicherheit besteht, sind wir verpflichtet, im Bestätigungsvermerk auf die dazugehörigen Angaben im Jahresabschluss und im Lagebericht aufmerksam zu machen oder, falls diese Angaben unangemessen sind, unser jeweiliges Prüfungsurteil zu modifizieren. Wir ziehen unsere Schlussfolgerungen auf der Grundlage der bis zum Datum unseres Bestätigungsvermerks erlangten Prüfungsnachweise. Zukünftige Ereignisse oder Gegebenheiten können jedoch dazu führen, dass die Gesellschaft ihre Unternehmenstätigkeit nicht mehr fortführen kann.

- beurteilen wir Darstellung, Aufbau und Inhalt des Jahresabschlusses insgesamt einschließlich der Angaben sowie ob der Jahresabschluss die zugrunde liegenden Geschäftsvorfälle und Ereignisse so darstellt, dass der Jahresabschluss unter Beachtung der deutschen Grundsätze ordnungsmäßiger Buchführung ein den tatsächlichen Verhältnissen entsprechendes Bild der Vermögens-, Finanz- und Ertragslage der Gesellschaft vermittelt.
- beurteilen wir den Einklang des Lageberichts mit dem Jahresabschluss, seine Gesetzesentsprechung und das von ihm vermittelte Bild von der Lage des Unternehmens.
- führen wir Prüfungshandlungen zu den von den gesetzlichen Vertretern dargestellten zukunftsorientierten Angaben im Lagebericht durch. Auf Basis ausreichender geeigneter Prüfungsnachweise vollziehen wir dabei insbesondere die den zukunftsorientierten Angaben von den gesetzlichen Vertretern zugrunde gelegten bedeutsamen Annahmen nach und beurteilen die sachgerechte Ableitung der zukunftsorientierten Angaben aus diesen Annahmen. Ein eigenständiges Prüfungsurteil zu den zukunftsorientierten Angaben sowie zu den zugrunde liegenden Annahmen geben wir nicht ab. Es besteht ein erhebliches unvermeidbares Risiko, dass künftige Ereignisse wesentlich von den zukunftsorientierten Angaben abweichen.

Wir erörtern mit den für die Überwachung Verantwortlichen unter anderem den geplanten Umfang und die Zeitplanung der Prüfung sowie bedeutsame Prüfungsfeststellungen, einschließlich etwaiger bedeutsamer Mängel in internen Kontrollen, die wir während unserer Prüfung feststellen.

Frankfurt am Main, 6. März 2025
Forvis Mazars GmbH & Co. KG
Wirtschaftsprüfungsgesellschaft
Steuerberatungsgesellschaft

Markus Morfeld
Wirtschaftsprüfer

Marvin Strache
Wirtschaftsprüfer